

'08

NPO愛知ネット 活動記録



すべての活動は、災害時の情報のために

特定非営利活動法人
NPO愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、 災害時の 情報のために。

NPO愛知ネットは、ホームページでボランティアへ呼びかけるとともに、被災状況など必要な情報を逐次流してきました。そこで痛感したのは、日ごろからの人と人の「つながり」と、いざとなったときの「情報システム」の構築の必要性。「防災・災害救援」、「社会教育」、「市民活動支援」、「まちづくり」の4つからなる活動は、被災地でNPO愛知ネットが活動した時の「教訓」が生きています。

■ 防災・災害救援

Active in disaster & Preparedness

災害時には、被災地内外を問わずボランティアに関する支援活動を行います。支援に必要なひとの確保や手配を行い、地元のボランティアと連携してコーディネートを行います。また安否確認システムの普及を行います。

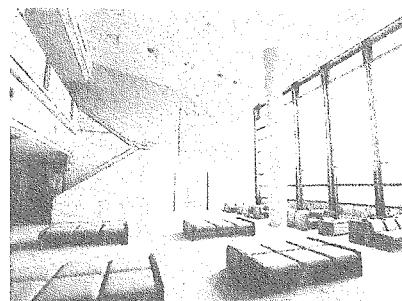


被災地での情報発信及び、被災地域外での情報支援活動
地域防災訓練の企画と実施
「あんびメール」による安否確認システム構築

社会教育

Social education

NPO愛知ネットは、愛知県青年の家が公の施設であることを認識し、公平・公正な運営を厳守し、全ての県民が、あらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実生活に即した教養を高められるように、愛知県青年の家として環境を整えた社会教育の場を提供します。同時に、当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関関連機関等と連携しながら、「青少年の『創造力』『生きる力』『和（役立ち合い）の精神』の教養・向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指します。

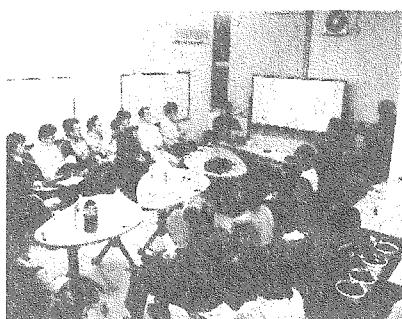


「愛知県青年の家(岡崎市)」の運営

市民活動支援

NPO support

ボランティア活動団体、市民団体、NPOで活動しているみなさんが活動しやすい環境づくりを目指して、インターネット環境はもとより、「わくわくセンター」「刈谷市民ボランティア活動支援センター」を運営し、情報と市民活動支援の新しいあり方を提案しています。

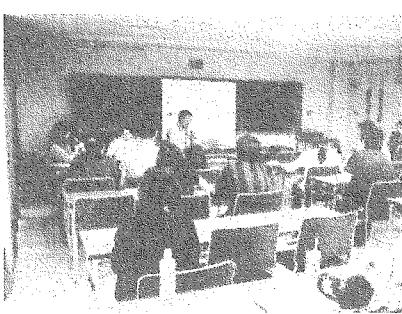


「わくわくセンター」の運営
「刈谷市民ボランティア活動支援センター」の運営
市民団体情報化のための支援活動

まちづくり

Town planning

災害時には日ごろからのつきあいやネットワークの力が役立ちます。それを充実させ活性化させていくことはまさに「防災の活動」といえます。NPO愛知ネットでは、各種イベントの企画実行を通して日ごろからの「地域力向上」に貢献しています。



「外国人のための防災講座」の実施
外国人のための生活情報支援、医療通訳、行政
通訳実施

■防災・災害救援

Active in disaster & Preparedness

近年の東海・東南海地震強化地域の拡充に伴って、NPO 愛知ネットの防災活動に対する地域からのニーズが以前にも増して高まってきました。

このような状況に際し NPO 愛知ネットは、これまで行ってきた各種の啓発・訓練、情報伝送に関する実証実験を統合し、地域に根ざす実効性のある事業を実施しました。

具体的には各地災害ボランティアセンターの運営、ボランティアコーディネート協力、各地防災訓練への参加、安否確認システムの普及のための活動、市議会議員防災勉強会、障がい者災害救援ガイドライン策定事業がそれにあたります。

●防災活動

1. 啓蒙・啓発事業

I. 実施概要

1. 県、市町村並びに各団体・組織が主催する訓練、会議、委員会などに参画、出席し情報交換、意見交換を行い、地域防災力の向上に寄与する。

II. 目標・計画と実績

1. 目標：防災訓練、各会議・委員会に参画、出席し、他団体や地域とのネットワークを広げ、災害時の支援体制を強化することを目標とする。

●従業員の人数

8名(天野、高桑、横山、大野、山下(眞)、松原、深谷、南里)

●受益対象者の範囲および人数

愛知県民 740 万人

III. 実施したイベント

1-1. Let's 防トレ

日 時：9月 28 日(日)9:00～16:00

場 所：財団法人あすて

参加者：豊田災害ボランティア会議、

豊田市消防団、

本町自治区、

トヨタボランティアセンター、

地域住民

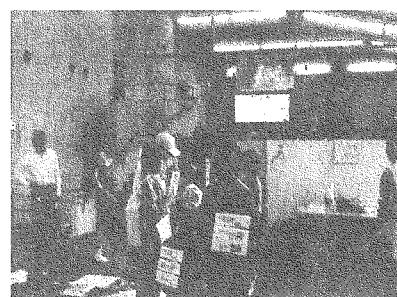
増田会員、

間瀬会員、

山下(克)会員 他 240 名

担当者：高桑、山下(眞)、南里

内 容：防災に关心を持つきっかけづくりとしてゲームなど体験イベントを実施した。



1-2. GISを使った要援護者避難システム検討会

日 時：10月28日、12月16日、09年2月20日

場 所：つながれっと NAGOYA

参加者：愛知工業大学正木教授、建部教授、

AI システム 西村氏、

特定非営利活動法人レスキューストックヤード

浦野氏、

社会福祉法人 AJU 自立の家湯浅氏、水谷氏、

愛知県、静岡県、他 8 市町村

担当者：山下

内 容：地図情報を利用した要援護者の避難支援システム検討会に委員として出席し、意見を述べた。

1-3. 西尾市総合防災訓練

日 時：11月9日(日)9:00～12:00

場 所：西尾市三和小学校

参加者：西尾市、

消防団、

自衛隊、

西尾市内各町内会、

西尾市内各自主防災組織、

西尾市災害ボランティアコーディネーター、

地域住民 他

担当者：山下、深谷、南里

内 容：総合防災訓練におけるボランティア支援センター運営訓練協力とあんびメールの訓練を行った。



1-4. トヨタ災害ボランティア体験

日 時：11月15日(土)、16日(日)

場 所：トヨタスポーツセンター

参加者：トヨタボランティアセンター、

豊田市社会福祉協議会、

愛知県、

横山理事、

岡田会員 他

担当者：天野、高桑、大野、山下(眞)、松原、深谷、野上、南里

内 容：三角巾、消火体験、瓦礫からの救出訓練、避難宿泊体験、帰宅困難者体験にくわえ、8月末豪雨についてパネラーとして検証した。

1-5. 防災&ボランティアフォーラム実行委員会、

愛知県防災ボランティア連絡協議会、

広域ボランティア支援本部訓練兼広域ボランティア支援本部マニュアル改正ワーキンググループ

日 時：11月18日、09年2月16日

場 所：愛知県東大手庁舎、三の丸庁舎

参加者：日本赤十字社愛知県支部、

愛知県社会福祉協議会、

日本ボイスカウト愛知県連盟、

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

ガールスカウト日本連盟愛知県支部
特定非営利活動法人レスキューストックヤード
日本アマチュア無線連盟愛知県支部、
トヨタグループ災害Vネット、
名古屋市消防局防災部防災室
名古屋市社会福祉協議会、NHK 名古屋放送局、
NHK プラネット中部、愛知県

担当者：山下（眞）、南里

内 容：1月に行う愛知・名古屋防災&ボランティアフォーラムの企画運営について検討、8月末豪雨についての報告、広域支援本部のマニュアルを見直した。

1-6. 防災国際ネットワーク有識者会議

日 時：11月16日（日）14:00～17:00

場 所：トヨタスポーツセンター

参加者：大阪大学渥美教授、トヨタ鈴木氏、
特定非営利活動法人レスキューストックヤード
栗田氏、愛知県加藤氏、李氏 他

担当者：天野、山下（眞）

内 容：愛・地球博ボランティアセンターの呼掛けで
アジアの防災とその為のネットワークのあり方を検討した。

1-7. 遊防災

日 時：11月30日（日）9:00～12:00

場 所：安城市北部小学校

参加者：安城市北部小学校校区子ども育成会加入538名
担当者：横山、南里

内 容：防災おたすけ鬼、非常持ち出し品ゲーム、
ロープワーク、プチプチ寝袋体験を通して
自助力を身につける講座を実施した。



1-8. 中央地区社協中学生防災教室

日 時：12月14日（日）9:00～14:00

場 所：昭林公民館

参加者：中央地区社会福祉協議会 吉村氏、
安城南中学校生徒29名、城南町内会、
岡田会員、

担当者：野村、山下（眞）

内 容：昨年に引き続き中央地区社協主催による中学生を対象とした防災講座を城南町内会、南中学校と連携して次世代の防災リーダー養成講座を実施した。



1-9. 緑丘小学校防災講座

日 時：09年1月17日（土）13:00～15:00

場 所：緑丘小学校

参加者：緑丘小学校4年生およびその父兄150名、
間瀬会員、
山下（克）会員

担当者：山下（眞）、南里



内 容：6月に防災講座を体験した生徒に対し、今回は三角巾による止血法、応急手当法、避難グッズづくり体験を通して、生徒及びその父兄の防災力レベルアップを図った。

1-10. 愛知・名古屋防災＆ボランティアフォーラム

日 時：09年1月18日(日)

場 所：アスナル金山

参加者：特定非営利活動法人レスキューストックヤード、日本赤十字社愛知県支部、愛知県社会福祉協議会、日本ボーイスカウト愛知県連盟、ガールスカウト日本連盟愛知県支部、日本アマチュア無線連盟愛知県支部、トヨタグループ災害Vネット、名古屋市消防局防災部防災室、名古屋市社会福祉協議会、NHK名古屋放送局、NHKプラネット中部、愛知県、防災ボランティア 他

担当者：山下(眞)、松原、南里

内 容：愛知・名古屋防災＆ボランティアフォーラムにおいてブース出展し、あんびメール、いつもトークの広報と防災クイズ、風船の配布をして防災啓発を行った。



1-11. 安城市シルバーカレッジ

日 時：09年1月21日(水)

場 所：安城市文化センター

参加者：安城市シルバーカレッジ受講生
安城市生涯学習課

担当者：南里

内 容：過去の地震災害の視点から考える、非常持ち出し品づくり体験を行った。

1-12. 安城市職員NPO研修

日 時：09年2月19日(木) 10:00～17:00

場 所：安城市北庁舎

参加者：安城市職員 62名

担当者：大野、山下(眞)

内 容：安城市中堅職員を対象にシナリオ型避難所ワークショップの体験を行った。

1-13. 名古屋国際センター通訳ボランティア研修

日 時：09年2月28日(土) 13:00～16:00

場 所：名古屋国際センター

参加者：通訳ボランティア 22名、名古屋国際センター職員 7名

担当者：大野、山下(眞)

内 容：外国人支援としての通訳ボランティア向けに「避難所とは」というテーマで講演を行った。

1-14. みえ防災コーディネーターフォローアップ研修

日 時：09年3月1日(日) 13:00～16:00

場 所：三重県庁議会棟大会議室

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

参加者：みえ防災コーディネーター56名、
三重県職員3名
担当者：山下(眞)
内 容：みえ防災コーディネーターを対象に地域でワークショップを行う際のポイントを講義し、シナリオ型避難所ワークショップの体験を行った。

IV. 今後の計画・残された課題

1. 今後の計画：県の会議を除き、今後の予定はなし。
2. 残された課題：参加団体とのネットワークを今後どのように活かして行くか。
各センターでのイベント及び愛知ネット自主事業の中で協力を図って行く。

2. 調査・研究事業

2-1. 宇宙航空研究開発機構

JAXA(独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 受託事業)

I. 実施概要

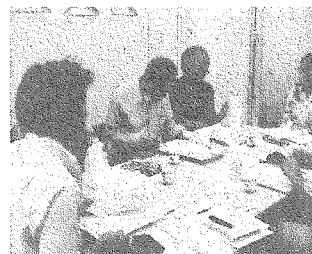
宇宙航空研究開発機構が実施する超高速インターネット衛星「きずな(WINDS)」の基本実験と非常用通信等伝送実験における実験準備及び実施に関わる業務。

II. 目標・計画と実績

1. 目 標：宇宙航空研究開発機構が実施する超高速インターネット衛星「きずな(WINDS)」の基本実験と非常用通信等伝送実験における訓練シナリオ作成とシステムの実証実験を支援する。
2. 計 画：
 1. 筑波近隣の災害ボランティア団体(茨木RB・神奈川RB)との連絡調整
 2. 実災害時を想定した訓練シナリオの検討業務
 3. 災害救援WEBに関する調査・研究
3. 実 績：今年度末まで随時
●従業員の人数：2名(天野、深谷)
●受益対象者の範囲および人数

III. 実施したイベント

1. 筑波近隣の災害ボランティア団体との連絡調整
日 時：9月20日(土)13:30～16:30
場 所：東京都 新橋
参加者：JAXA・茨木RB・神奈川RB
担当者：天野、深谷
内 容：非常用通信等伝送実験における訓練シナリオ検討



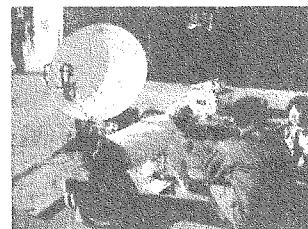
2. 事業の概要説明およびシナリオ素案発表

日 時：10月18日(土)13:30～16:30
 場 所：JAXA 筑波宇宙センター
 参加者：JAXA・茨木RB・神奈川RB
 担当者：天野、深谷
 内 容：JAXAによる本事業の概要説明後、NPO愛知ネットより
 訓練シナリオの素案2案を発表



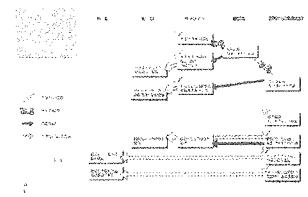
3. 四国地方非常通信訓練参加

日 時：11月12日(水)～11月14日(金)
 場 所：徳島県防災センター
 参加者：JAXA・茨木RB・神奈川RB
 担当者：天野、深谷
 内 容：四国地方非常通信訓練の見学およびインターネット衛星
 「きずな」地球局の組立て訓練



4. シナリオ報告会

日 時：12月12日(金)13:30～16:30
 場 所：JAXA 筑波宇宙センター
 参加者：JAXA
 担当者：天野、深谷
 内 容：実災害時にインターネット衛星「きずな」地球局を使用する
 ことを想定した訓練シナリオを策定。発表した。



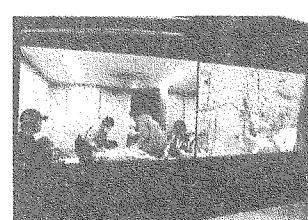
5. 地球局組立て訓練

日 時：2月22日(日)10:30～18:00
 場 所：JAXA 筑波宇宙センター
 参加者：JAXA・茨木RB・神奈川RB
 担当者：天野、深谷
 内 容：シナリオに基づく訓練に先立ち、地球局の組立て
 訓練、使用アプリケーションの実証実験を行った。



6. シナリオに基づく訓練

日 時：3月8日(日)10:30～18:00
 場 所：JAXA 筑波宇宙センター
 参加者：JAXA・茨木RB・神奈川RB
 担当者：天野、深谷
 内 容：災害想定シナリオに基づく訓練を実施した。

**IV. 今後の計画・残された課題**

1. 今後の計画：今期の事業結果を踏まえた訓練シナリオの改訂業務、自治体の防災訓練への参加
2. 残された課題：インターネット衛星「きずな」を災害NPOが自立運用するための取り組み

2-2. 災害時要援護者**I. 実施概要**

1. 平成20年度障害者保健福祉推進事業地域連携型障害者災害救援ガイドラインの策定に関する調査研究事業である。災害発生時など緊急時における障がい者支援を地域が連携して行えるよう、障がい者関係団体、自治体、地域住民に向けた障害者災害救援ガイドラインを策定する。

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

II. 目標・計画と実績

1. 目 標 高齢者や子供、外国人といった災害弱者に対する取り組みは進んできたものの、障がい者に対する取り組みは、災害発生時の安否確認すらままならないのが現状である。そのような現状を打破すべく、本調査研究事業において、災害発生時における障がい者支援に必要な地域連携のあり方のガイドラインをまずは示したい。
 2. 計 画 ヒアリング：8月～09年1月 分析・検討：9月～09年2月
ガイドライン作成：11月～09年3月 フォーラム開催：09年1月、2月
災害体験事業：09年3月 専門委員会：全4回
 3. 実 繢 実施したイベントの通り
- 従業員の人数
5名(天野、戸上、山下、舟橋、南里)
- 受益対象者の範囲および人数
655.9万人(身体障がい者 351.6万人、知的障がい者 45.9万人、精神障がい者 258.4万人)

III. 実施したイベント

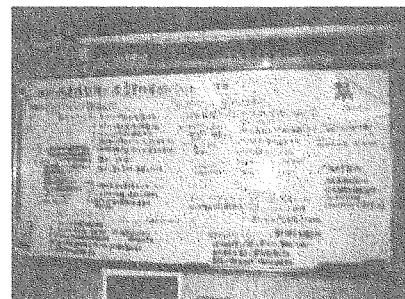
1. ガイドライン策定事務局会議

日 時：7月9日、7月16日、7月23日、7月30日、10月7日、12月22日、1月6日、1月17日、2月20日、3月5日、3月19日

場 所：NPO 愛知ネット事務所

参加者：名古屋工業大学大学院 秀島准教授、
社会福祉法人むそう 戸枝理事長、
担当者：天野、戸上、山下(眞)、舟橋、南里

内 容：障害者災害救援ガイドラインのまとめ、事業の
方向性確認と進捗管理を行った。



2. 安全安心セーフティネットフォーラム

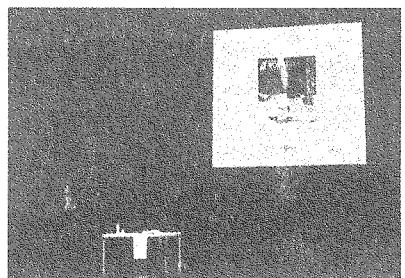
日 時：実行委員会 10月15日、7月23日、8月19日、
9月17日、10月15日、12月11日、
09年1月7日

フォーラム 09年1月31日、2月1日

場 所：実行委員会 むそうアートスクエア

フォーラム パティオ池鯉鮒

参加者：社会福祉法人むそう戸枝理事長、下畠氏、瀬氏、
愛知県立養護学校 近藤氏
株式会社ジョブエル 川上氏
社会福祉法人憩の郷 高山氏
社会福祉法人蒲郡市社会福祉協議会 鈴木氏
社会福祉法人半田市社会福祉協議会 加藤氏
前山氏
特定非営利活動法人 NPO かわせみ 横倉氏
特定非営利活動法人こすもす畠 高橋氏
特定非営利活動法人知多成年後見センター
今井氏、大塚氏
特定非営利活動法人ふい～る工房 神谷氏
新井氏
特定非営利活動法人ふわり 麻氏
特定非営利活動法人楽笑 小田氏
豊川知的障害者育成会 篠原氏
名古屋市総合リハビリテーションセンター



鈴木氏

名東区手をつなぐ育成会 永田氏

有限会社ハートフルハウス 伊東氏

担当者：天野、戸上、山下、舟橋、南里

内 容：フォーラムの企画検討、および運営を行った。

3. ヒアリング

日 時：柏崎市 8月1日・9月29日

西宮市 10月21日 12月8日 09年1月10日

東海市 09年1月22日

半田市 09年1月28日

名古屋市 09年1月28日

場 所：新潟県柏崎市、兵庫県西宮市、愛知県東海市、半田市、名古屋市

参加者：柏崎市 柏崎市福祉保健部福祉課長渡部氏
柏崎市議会議員荒城氏、遠藤氏、星野氏、若井氏

NPO 法人トライネット西川代表理事

名古屋工業大学秀島准教授

西宮市 メインストリーム玉木副代表

有限会社コラボねっと石井取締役、後藤部長

西宮市社協寺谷係長

NPO 法人ゆめ風基金八幡氏

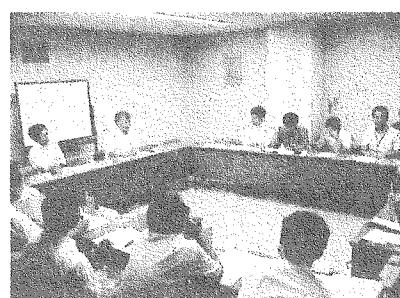
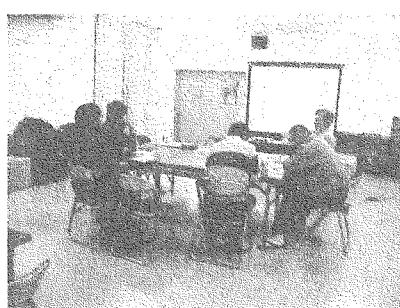
東海市 障がい者総合支援センター高山氏 他

半田市 社会福祉法人むそう下畠氏 他

名古屋市 名古屋市総合リハビリテーションセンター鈴木氏 他

担当者：戸上、山下、舟橋、南里

内 容：ガイドライン策定のための被災体験聞き取り及びガイドラインについての相談を行った。



4. ガイドライン策定専門委員会

日 時：8月27日、10月23日、1月19日、3月12日

場 所：安城市文化センター、安城市勤労会館

参加者：大村衆議院議員、

大見県議会議員、

日本福祉大学大学院児玉教授、

名古屋工業大学大学院秀島准教授、

日本福祉大学吉村准教授、

愛知県地域福祉課鎌倉課長、

安城市保健福祉部成瀬次長、市民生活部梅田防

災監、社協神本事務局長、町内会連絡協議会中

前副会長、

社会福祉法人むそう戸枝理事長、

特定非営利活動法人レスキューストックヤード

浦野事務局長

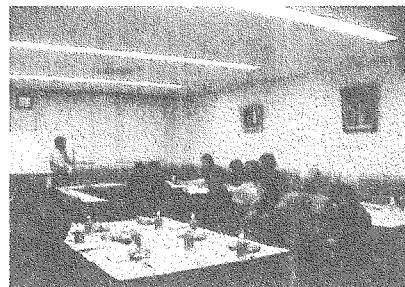
担当者：天野、戸上、山下、舟橋、南里

内 容：障がい者災害救援ガイドラインの説明と内容についての多角的検討並びに意見集約を行った。

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

5. 災害シミュレーション体験事業
日 時：3月 8日(日) 9:30～12:00
場 所：住吉町内会公民館
参加者：中前住吉町内会会長、住吉町内会役員、
住吉町内会民生委員、安城市社会福祉協議会、
特定非営利活動法人こすもす畠
担当者：山下、南里
内 容：町内会と障がい者関係団体が、ガイドラインに基づいたワークショップを行った。



IV. 今後の計画・残された課題

1. 今後の計画：障害者災害救援ガイドラインを、県内福祉施設・作業所で活用されるよう展開を図る。
2. 残された課題：今回作った福祉団体や地域の方とのパイプを活かし、福祉と防災をつなぐツールとして障害者災害救援ガイドラインを広め、地域防災力向上と要援護者支援に寄与する。

2-3. 防災科学技術研究所

I. 実施概要

1. 安城市議會議員防災勉強会
災害時に地域連携の要としての役割が期待される議員の皆様とともに、災害時の課題を被災地から学び、日頃から備えていただくことを目的として勉強会を開催した。
2. 三重県シナリオ型避難所運営ワークショップ
災害時における避難所の運営について、みえ防災リーダーの方を対象に、リスクガバナンスに基づく地域防災力の向上及び災害リスク理解のための、シナリオ活用ワークショップの運営協力として、ファシリテーター養成の事前講習を行った。

II. 目標・計画と実績

◎安城市議會議員防災勉強会

1. 目 標：安城市議全員の参加で全3回の講座を開催することで、地域防災訓練としてのシナリオ型避難所運営ワークショップの有効性を理解いただき、次年度町内会での開催に繋げることを目標とする。
2. 計 画：全3回の講座を開催する。
3. 実 績：
第1回勉強会開催 9月30日(火)13:30～
講師 独立行政法人防災科学技術研究所

第2回勉強会開催 10月22(水)13:30～

講師 新潟県柏崎市議會議員、特定非営利活動法人トライネット

第3回勉強会開催 11月6日 13:30～

講師 独立行政法人防災科学技術研究所

●従業員の人数

6名(天野、高桑、牧野、山下(克)、山下(眞)、南里)

●受益対象者の範囲および人数

安城市民 17.9万人

◎三重県シナリオ型避難所運営ワークショップ

1. 目 標：独立行政法人防災科学技術研究所から委託により、ワークショップの運営協力をを行い、地域防災訓練としてのシナリオ・ワークショップを有意義なものとする。

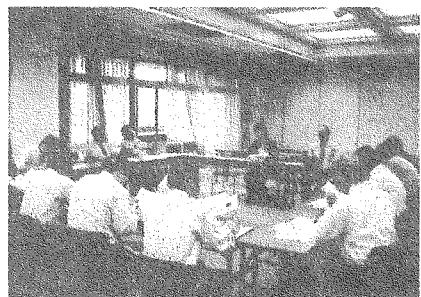
2. 計画：事前講習をふまえ、2回のワークショップを実施する。
3. 実績：事前講習開催 12月30(火)13:30～ファシリテーター養成
第1回ワークショップ開催 1月15日(木)10:30～シナリオ型避難所運営ワークショップ
第2回ワークショップ開催 1月16日(金)10:00～事前対策作成ワークショップ
- 従業員の人数：5名(高桑、戸上、大野、山下、南里)
 - 受益対象者の範囲および人数：三重県民187万人

III. 実施したイベント

1. 第1回安城市議会議員防災勉強会
日 時：9月30日(火)13:30～16:30
場 所：安城市文化センター
参加者：安城市議 29名、
安城市市民生活部防災監、
安城市議会事務局 3名
担当者：天野、山下、南里
内 容：リスクガバナンスに基づく地域防災力の向上、
及び災害リスク理解のためのシナリオ活用について学んだ。



2. 第2回安城市議会議員防災勉強会
日 時：10月22日(火)13:30～16:30
場 所：安城市文化センター
参加者：安城市議会議員 23名、
安城市市民生活部防災監、
安城市市民生活部防災課長、
安城市市民生活部防災課長補佐、
安城市議会事務局 3名
担当者：天野、山下、南里
内 容：「中越沖地震の体験談をお聞きする」と題し、
中越沖地震における柏崎の行政と事業所並びに市議会議員の対応事例から、安城における東海地震、東南海地震などの災害に対する取り組みを考えた。



3. 第3回安城市議会議員防災勉強会
日 時：11月8日(土)13:30～16:30
場 所：安城市文化センター
参加者：安城市議 28名、安城市市民生活部防災監、
安城市議会事務局 3名 他
担当者：天野、山下、南里
内 容：「米国ハリケーンカトリーナによる失敗例」及び「シナリオ型避難所ワークショップの体験」として、リスクガバナンスに基づく地域防災力の向上及び災害リスク理解のためのシナリオ活用ワークショップを体験した。



NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

4. 三重県シナリオ型避難所運営ワークショップ

事前講習

日 時：12月20日(土)13:30～16:30

場 所：三重県栄町庁舎

参加者：みえ防災コーディネーター11名、

三重県地震対策室3名、

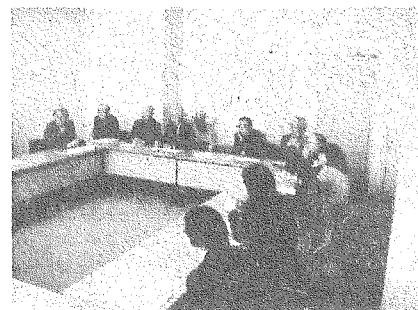
株式会社社会安全研究所 安部氏

独立行政法人防災科学技術研究所 4名

担当者：高桑、山下(眞)、南里

内 容：シナリオ型避難所運営ワークショップの事

前講習として、ワークショップのファシリテーター養成を行った。



5. 三重県シナリオ型避難所運営ワークショップ第1回

日 時：09年1月15日(木)10:30～17:10

場 所：三重県消防学校

参加者：自主防災組織役員71名、

みえ防災コーディネーター10名、

三重県地震対策室3名、

株式会社社会安全研究所 安部氏、

中部大学生命健康科学部 牧野教授

中部大学工学部 武田准教授

日本防火協会 富田氏

防災科学技術研究所 6名

担当者：戸上、大野、山下(眞)、南里

内 容：避難所運営のイメージおよびそのプロセスを理解する為、避難所におけるシナリオの作成ワークショップを行った。



6. 三重県シナリオ型避難所運営ワークショップ第2回

日 時：09年1月16日(金)9:00～15:30

場 所：三重県消防学校

参加者：自主防災組織役員71名、

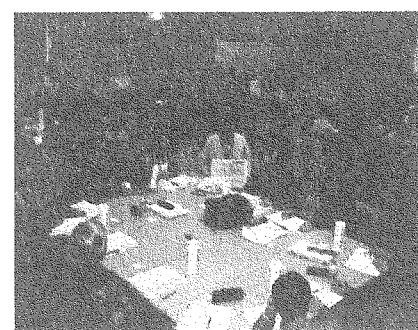
みえ災害コーディネーター10名、

三重県地震対策室3名、

防災科学技術研究所 6名

担当者：山下(眞)、南里

内 容：前日作成したシナリオ作成結果を基に、平時の備えと事前対策を考え、各グループごとに発表しあった。



IV. 今後の計画・残された課題

■安城市議会議員防災勉強会

1. 今後の計画：3回の勉強会を通じて考えた、災害時に地域から求められる議員の役割を認識し、地域防災力向上に活かす。
2. 残された課題：今回全議員の方に体験していただいた、シナリオ型避難所運営 WS を来年度小学校区単位で地域展開し地域防災力向上に寄与する。

■三重県シナリオ型避難所運営ワークショップ

1. 今後の計画：特になし。
2. 残された課題：今回参加した三重県自主防災組織のフォローとファシリテーターをしていただいた、みえ防災コーディネーターの方へのフォローを行い、シナリオ型避難所運営ワークショップの三重県での展開を図る。

3. 情報支援事業

3-1 あんびメール&安全・安心メール

I. 実施概要

1. 災害時に携帯電話のメールシステムを使い安否の確認をするとともに、安否の確認を家族に知らせるシステム。また、そのシステムを流用し平常時は不審者情報や火災情報などを配信する安全・安心システムの運用。

II. 目標・計画と実績

1. 目標：安否確認システム利用者 3万人 安全・安心システム 1万人

計画：安否確認システムで 7千人、安全安心システムも含め今年度中に 1万人を計画

実績：現在 7千人程度であり、厚生病院から 2,000 人の引き合い、ど真ん中祭りからの引き合いがある。また、チロロネットのレンタルサーバーのサービスに組み込む計画が今年度より始まる。

●従業員の人数

2名 担当 天野、深谷

●受益対象者の範囲および人数

7,000 人

III. 実施した事業内容

システム改修をした。グルーピングが容易にできるよう、各階層の ID・PW を付与できるようにシステム改修を実施。また、今後は、鉄道や航空機などの運航状況などの情報提供も検討する。また、安全・安心メールの拡大を図るために、各学校向けの研修会を開催した。現在安城市内で 4校の導入が決まり、学校に出向き運用説明会を開催した。

IV. 今後の計画・残された課題

今後の計画：昨年度から、あんびメール運用としては黒字である。しかし一人分の人件費を出すまでには事業自体が成長していない。今後平常時の利用である、安全・安心メールの利用者を拡大する。

今後の課題：日本気象協会の情報提供が、公益法人改革の波で無料提供ができなくなる。

年間 190 万の情報配信の請求打診があり、現状としては、困難である。

そのため、当団体の評議員であるレスキューナウからの情報提供に切り替える。

現状として、年間 50 万の情報提供料

●災害救援活動

I. 実施概要

1. 平成 20 年岩手・宮城内陸地震救援活動

6月 14 日 8 時 43 分に発生した平成 20 年岩手宮城内陸地震の復旧復興支援のため、6月 15 日から 6月 22 日まで、宮城県内で被害の大きかった栗原市において、宮城県栗原市社会福祉協議会に同行し、現地より情報発信を行った。

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

2. 平成 20 年 8 月末豪雨救援活動

8月28日に愛知県岡崎市で時間雨量146.5ミリという記録的な豪雨となり、観測史上1位を更新するなど、後に「平成20年8月末豪雨」と命名された災害の復旧復興支援のため、8月29日から9月7日まで岡崎市がボランティアセンターを福祉会館に設置し、社会福祉協議会、青年会議所、地元ボランティア団体とともにボランティアコーディネートやセンター運営などを実行なった。

II. 実績

1. 平成 20 年 岩手・宮城内陸地震

日 時：2008年6月15日～6月22日の8日間

場 所：宮城県栗原市

参加者：宮城県栗原市社会福祉協議会、宮城県栗原市、
宮城県社会福祉協議会、特定非営利活動法人
レスキューストックヤード 他

担当者：南里

内 容：現地からの情報発信ならびに、避難所運営支援、
被災者宅訪問をした。



2. 平成 20 年 8 月末豪雨救援活動

日 時：2008年8月29日～9月7日まで10日間

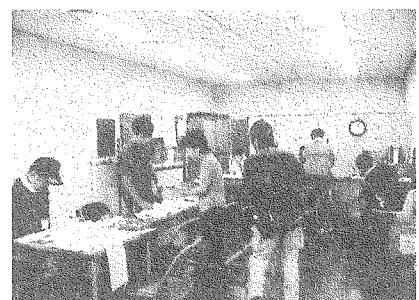
場 所：愛知県岡崎市

参加者：岡崎市社会福祉協議会、岡崎市、
愛知県社会福祉協議会、岡崎市青年会議所、
災害ボランティアおかげ、災害ボランティア一步の会額田、特定非営利活動法人レスキューストックヤード、特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、間瀬会員、山下(克)会員
他



担当者：天野、高桑、牧野(明)、大野、山下(眞)、松原、深谷、南里

内 容：現地からの情報発信ならびに、岡崎市防災ボランティア支援センター運営、およびサテライトセンターの運営を行った。



IV. 今後の計画・残された課題

1. 今後の計画：特になし
2. 残された課題：今回、得られた経験を記録として残し、来るべき地震災害の備えとしたい。

■社会教育

Social education

○愛知県下唯一の県立青年の家である当施設は、青少年のみなさんが、規則正しい集団宿泊生活をしながら、研修活動、野外教育活動、レクリエーション活動などを通して、協同・友愛・奉仕の精神を養い、よりよい社会人としての資質を身につけるために作られた社会教育施設です。

○私たちは、経済産業省の若者と中小企業とを結ぶネットワーク構築事業を3ヶ年継続して受託してまいりました。その間、「企業探検隊」、「長期実践型インターンシップ」および「強いジンザイ育成サロン」というプログラムを開発してまいりました。今年度は、この「強いジンザイ育成サロン」が、愛知学長懇話会に認定していただき、県内の50校の4年制大学の学生が共通に単位取得ができる授業として開校することができました。

また、来年度以降の展開を考え、若者を育成する志を持った地元の中小企業の経営者の方に参加していただく「魅力創出エンジン会議」を開催し、この会議をコアとして地元の企業が強いジンザイとして地元の若者を育成していく仕組みを構築したいと考えています。

●愛知県青年の家

I. 施設概要

場 所：岡崎市美合町並松1-2

電 話：(0564) 51-2123

フ ァ ク ス：(0564) 51-2027

E - m a i l：staff@aichi-yh.jp

U R L：<http://aichi-yh.jp/>

開館時間：宿泊客無し 8時30分～17時30分

宿泊客有り 8時30分～22時

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は火曜日が休館日）

主な施設：

- ・管理棟 第1研修室（99人）、第2研修室（63人）、

第3研修室（63人）、

第4研修室（多目的ホール<収納式椅子192人>）、

第5研修室（36人）、第7研修室（18人）、

ボランティアルーム（12人）、

情報相談コーナー、保健室、更衣室2室、

食堂（116人収容可能）

- ・宿泊棟 宿泊室45室（洋室37室、和室8室）

洋室：2人用（バストイレ付）6室、

2人用（バストイレ無）19室、4人用4室、

6人用8室

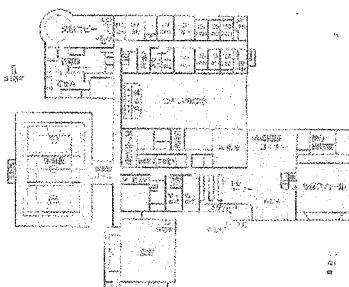
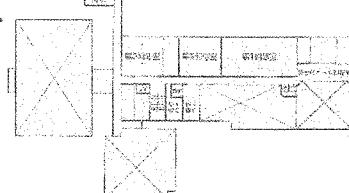
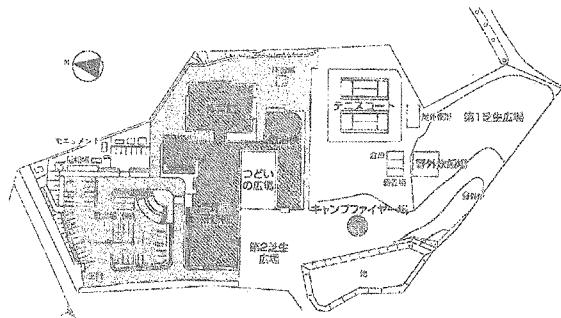
和室：6人用6室、15人用（研修室兼用2室）、

第6研修室（葵庵）、

交歓ロビー、浴室・シャワー室2室

- ・体育館 バスケットボール（1面）、バレー（1面）、

バトミントン（3面）など



NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

委託業務名・目的

- (1) 業務名：愛知県青年の家指定管理運営委託
- (2) 事業の目的：当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関連携等と連携しながら、「青少年の『創造力』『生きる力』『和（役立ち合い）の精神』の教養・向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指す。
- (3) 実施期間：平成19年4月1日(土)～平成20年3月31日(土)
(指定管理 平成23年3月31日まで)

施設の任務

- (1) 業務内容：利用申込・受付・許可に関する業務、館内案内、利用案内、接遇業務、接客対応、電話対応、団体対応(学校行事・一般団体・視察等)、苦情対応等にあたる。青年の家利用者ニーズの把握とサービス向上に関する業務

II. 目標・計画と実績

- 当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関連携等と連携しながら、「青少年の『創造』『生きる力』『和（役立ち合い）の精神』の教養・向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指す。(主催事業の充実・キャラバン隊新設・派遣)
- 地域との連携を深める事業の充実を図る。(子ども会・ユースソポーター)
- サービス向上のために、寝具等の充実を図る。(マットレス・掛布団・ベッドパット等の更新)
- 利用客増を図り、経営化の安定に努める。(目標宿泊者昨年度比1割増)

●従業員の人数…18名

●受益対象者の範囲および人数

受益対象者：青年の家宿泊及び日帰りの利用客 人数：100,000名(実績：55,000名)

III. 実施したイベント

1. 週末活動支援事業

学校週5日制にともなう土曜休業日に、青年の家の特性をいかして、自然体験活動・野外活動工作活動等の事業を実施し、親子のふれあいや家族間交流が行える場を提供し、青年の家周辺地域とのふれあいを図る。

事業名	開催期日	参加人数	内容	参加費	対象	定員
1 空を目指して！	H20.5月17日(土)	20名	ペットボトルロケット 手作りピザ	1,000円		
2 達人を目指して！	H20.6月21日(土)	51名	手打ちうどん作り 竹籠 カッポン下駄	1,000円		
3 炎を目指して！	H20.9月6日(土) ～9月7日(日) 【1泊2日】	58名	川遊び キャンプファイア 火起こし器体験 流しそうめん ダンボールベット	3,500円	小学生と その保護者 (親子)	50名 (15家族程度)
4 食道を目指して！	H20.10月4日(土)	25名	木登り 木の実遊び 秋の味覚探し	500円		
5 慶久を目指して！	H21.1月17日(土)	50名	正月遊び 餅つき 麻揚げ	1,000円		

(1) 第1回:「空を目指して！」

と き：平成 20 年 5 月 17 日(土)
 場 所：愛知県青年の家
 参 加 者：9 家族 23 名
 担 当 者：五十嵐
 内 容：ペットボトルロケット作り、野外炊飯場での調理、ペットボトルロケット試射



(2) 第2回:「達人を目指して！」

と き：平成 20 年 6 月 21 日(土)
 場 所：愛知県青年の家
 参 加 者：18 家族 93 名
 担 当 者：五十嵐
 内 容：手打ちうどん調理、竹馬づくり・試乗



(3) 第3回:「炎を目指して！」

と き：平成 20 年 9 月 6 日(土)
 ~7 日(日)【1泊 2 日】
 場 所：愛知県青年の家・かなれ渓谷
 参 加 者：24 家族 73 名
 担 当 者：五十嵐
 内 容：1 日目 川遊び、野外炊事(BBQ)、キャンプファイヤー、段ボールベッドづくり
 2 日目 科学実験、流しそうめん、火おこし体験



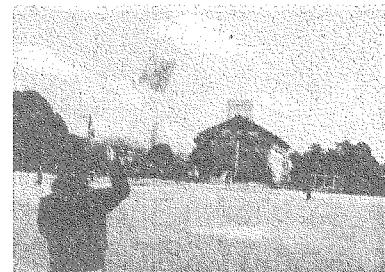
(4) 第4回:「食通を目指して！」

と き：平成 20 年 10 月 4 日(土)
 場 所：愛知県青年の家
 参 加 者：11 家族 29 名
 担 当 者：五十嵐
 内 容：木登り体験、秋の味覚探し(散策)、秋の味覚(野外炊飯)、木の実遊び



(5) 第5回:「悠久を目指して」

と き：平成 21 年 1 月 17 日(土)
 場 所：愛知県青年の家
 参 加 者：18 家族 50 名
 担 当 者：五十嵐
 内 容：凧作成、もちつき、正月あそび(凧揚げ、こま回し、羽子板など)



NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

2. 青年の集い事業

交流から自己啓発を促すとともに協働・発展のきっかけとなる機会を提供し、青年と青年の家との連携を深める。

事業名	開催期日	参加人数	内 容	参加費	対象	定員
NPO交歓会 (NPO新年交流会)	H21.1月24日(土) ～1月25日(金) 【1泊2日】	20名	情報交換 交流 懇親 講演	3,000円	NPO職員 市民活動参加者 ボランティア経験者	30名
ユースフォーラム2008 ～ 未来アクションプランコンテスト～	H21.2月15日(日)	124名	情報交換 交流 アクションプラン構想 実行委員会の組織	500円	青年	50名

(1) NPO交歓会

と き：平成 21 年 1 月 25 日(土)

参 加 者：20名

担 当 者：五十嵐

内 容：N P O 職員やNPOについて関心のある社会人、学生が集い交流を深めた。
加藤源重氏の講演

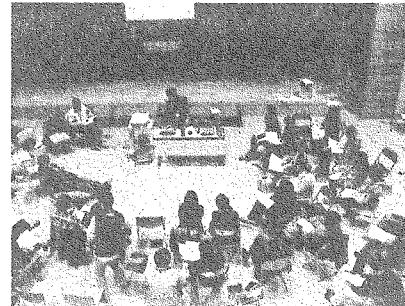
(2) ユースフォーラム 2008

と き：平成 21 年 2 月 15 日(日)

参 加 者：124 名

担 当 者：五十嵐

内 容：情報交換会



(3) ユースワーカースキル向上支援事業

かつこいいオトナに学べ

と き：平成 21 年 2 月 14 日(土)

参 加 者：37 名

担 当 者：五十嵐

内 容：専門的・先進的な技術・知識を体験させ、具体的なスキル修得の機会を提供することで活動青年の資質向上を図る。

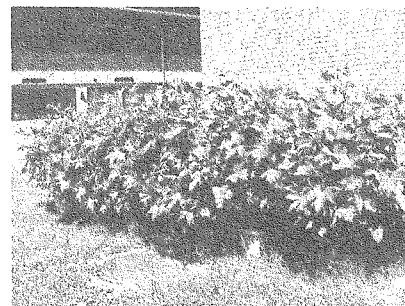
(4) 地域子ども会との連携事業

と き：平成 20 年 11 月 2 日(日) 他 6 回開催

参 加 者：参加者:66名

担 当 者：五十嵐

内 容：ローゼルジャム作り、鳥の巣箱設置



(5)青年の家オープンデー

と き：平成 20 年 10 月 18 日(土)
 場 所：愛知県青年の家
 参 加 者：21 名
 担 当 者：五十嵐・南里
 内 容：防災の要素を取り入れた鬼ごっこ、ペットボトルロケット、鳥の巣箱作り、おもしろ科学実験教室、テニス、野外炊飯(ナン&カレー)、茶道体験、巨大プリン作り



(6)東海北陸研究大会

と き：平成 20 年 12 月 4 日(木)・5 日(金)
 参 加 者：70 名
 担 当 者：五十嵐
 内 容：基調講演講師 長久手町文化の家 館長 川上 實 氏
 第 1 分科会テーマ「青少年育成～青少年健全育成のあり方と諸問題～」
 第 2 分科会テーマ「施設運営～管理・運営のあり方と諸問題～」
 第 3 分科会テーマ「指定管理制度～官民協働のあり方と諸問題～」

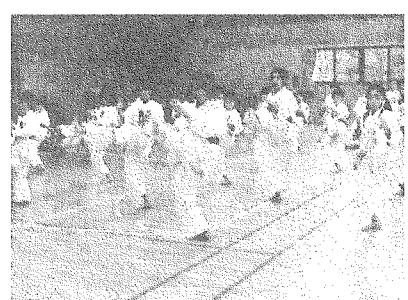
(7)青年の家主催の大会

①第 1 回青年の家杯剣道大会
 と き：平成 21 年 1 月 25 日(日)
 場 所：青年の家
 参 加 者：120 名(全国)



②第 2 回青年の家杯空手道大会

と き：平成 21 年 2 月 21 日(土)・22 日(日)
 場 所：青年の家
 参 加 者：150 名(全国)



(8)青少年育成事業

①科学実験キャラバン隊
 と き：平成 20 年 7 月 26 日(土)
 を皮切りに年間 20 回
 場 所：青年の家・田口小学校・西尾図書館等
 参 加 者：約延 500 名
 担 当 者：赤堀
 内 容：各種科学実験



NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

②ユースサポーター

登録者：30名

担当者：五十嵐

内容：青年の家主催事業の企画・運営を通し、
ボランティア活動をして自身のスキルアップをする。

IV. 今後の計画・残された課題

1. 順調な3年間

(1) 延宿泊者数の推移

年度	16	18	19	20	21(目標)
宿泊人数	15,802	17,142	20,697	22,929	23,000
前年度比	0	+8	+21	+10	+5

(2) 利用料金収入の推移

年度	16	18	19	20	21(目標)
収入	31,538,050	33,795,250	40,885,100	44,782,900	45,000,000
前年度比	0	+7	+21	+10	+1

2. 主催事業の充実

(1) 週末等の主催事業の充実

(2) 新しい事業の展開

- ① 科学実験キャラバン隊
- ② 各種大会

3. 青少年教育の充実

(1) 子ども会との連携と充実

平地西・中、平地東、平地西2区、美合西、馬頭緑ヶ丘、羽根北、藤川

(2) ユースサポーター

現状30名の大学生

4. サービスの向上

(1) 寝具の充実

20年度・21年度で布団を買い替える

(2) 清潔で使いやすい宿泊室

(3) 定期清掃の充実

業者との連携を深め充実を図るの設置と拡大

5. 経営の安定化

リピーターを大切にして、年間2万人以上を確保

6. 今後の展開

(1) 50周年記念事業

- 50周年記念事業部会の設置
記念誌の発行・祝賀行事
各種事業を冠行事として充実を図る
新たな記念行事を企画する
- (2) 新規事業
青少年環境体験活動（文科省補助金）
みちくさ探検隊（モリコロ基金）
防災おたすけ鬼（モリコロ基金）
おもしろ科学教室（文科省ゆめ基金）
- (3) 施設設備の充実
寝具の取替え、空調機・ボイラー・消防設備

●右腕：若者と中小企業とを結ぶネットワーク構築事業

I. 実施概要

1. 企業への参加アプローチ

愛知県中小企業団体中央会と連携し、30社ほどの企業を訪問し、社長研修会への参加を促すとともに、当プログラムに関心のある企業の発掘を行なながら、この地域における人材確保を真剣に議論するプラットフォーム（魅力創出エンジン・ネットワーク）への参加と、「強いジンザイ育成サロン」への協力を促す。

企業にとって「強いジンザイ育成サロン」への参加は、若者の実態を常にモニターすることにつながり、その生の情報と「魅力創出エンジン・ネットワーク」における意見交換とが相まって、自社に合った人材確保プログラムの構築を目指すことができると考えている。

中小企業側に対しては、「強いジンザイ育成サロン」と「魅力創出エンジン・ネットワーク」との相乗効果により、自社に合った人材確保プログラムの構築をファシリテートし、またそのために必要な支援プログラムをコーディネート機関として提供することを中・長期的目標とする。

2. 若者への参加アプローチ

「強いジンザイ育成サロン」は、今年度より愛知県内全ての四年制大学で単位として認定されることになった。よって、県内の全ての大学に当講座が通知される。とはいえ、実際には単位互換制度の数多ある講座の一つに過ぎず、学生に認知されるには工夫が必要であろう。講座開始前に、直接各大学のキャリアセンターや研究室など30か所ほどを訪問し、広く学生に周知することに力を注いだ。

3. 魅力創出エンジン・ネットワーク

これまでに関係を構築できた中小企業と、若者とを中心に、当地域での人材確保に関して真剣に議論するプラットフォームを構築するためのネットワーク会議（「愛知のチカラコブ」コア会議）を、以下のとおり開催した。

「愛知のチカラコブ」コア会議では、例えば次のような効果を期待している。

- ・この地域における中小企業の真の人材ニーズおよび人材関連の周辺ニーズを明らかにする。
- ・同種事業を行う他団体との事業連携を図る。
- ・コーディネート機関に真に期待されている事業（対価を払っても良いもの）を立案する
- ・企業が主体的に人材確保できるような支援メニューを構築する。

「愛知のチカラコブ」コア会議には、中小企業、若者のほかに、以下のような協力機関にも参加していただいた。

- ・企業団体：愛知県中小企業団体中央会、愛知中小企業家同友会、名古屋商工会議所若鮎会等
- ・学生・若者関連団体：東海地域インターンシップ推進協議会、株式会社学生情報センター、

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

- NPO 法人 G-net など
- ・自治体：愛知県産業労働部、名古屋市など

4. 愛知県内大学共通単位化講座「強いジンザイ育成サロン」

昨年度事業において当団体が主催した連続講座「強いジンザイ育成サロン」が、今年度には愛知学長懇話会を通じて愛知県内四年制大学全てで単位認定されることとなった(単位認定元大学を日本福祉大学に、会場提供を愛知産業大学へ依頼)。

今年度実施している「強いジンザイ育成サロン」では、主に3年生後期の学生、および第二新卒や若手社会人など、学生から社会人へ至る遷移期の若者達のスキルアップとキャリア形成を通じて地域で働くことの魅力を伝える、という昨年度の基本路線を踏襲しながらも、一回ごとのプログラムの魅力強化と各プログラムの関係性強化を図り、講座参加者にとっての成果を明瞭に把握できるものとした。

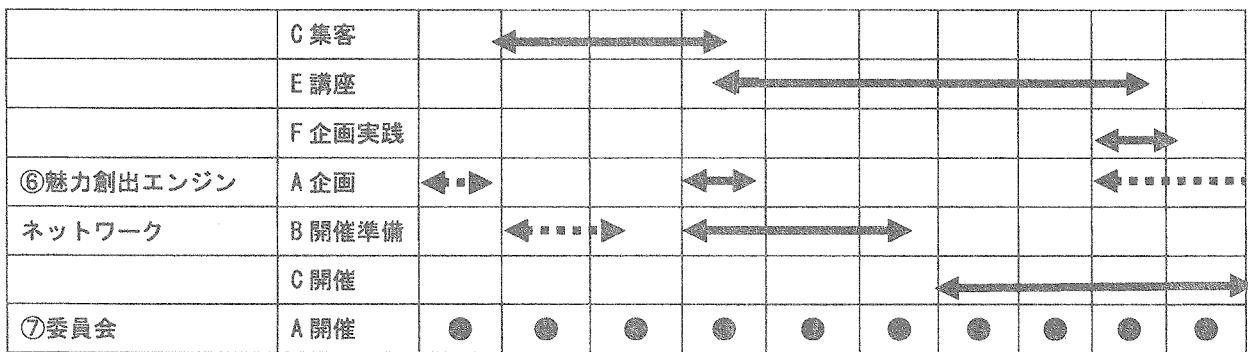
5. 大学キャリア教育連携事業および大学への参加アプローチ

今年度は、「強いジンザイ育成サロン」を通して「企業探検隊プロジェクト」：企業探検隊とキャリア教育とファシリテーション教育を絡めたプログラムを開催する。

6. 報告書の作成

II. 目標・計画と実績

項目	作業	平成 20 年							平成 21 年		
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
企業側への働きかけ											
①参加アプローチ	A 抽出	↔									
	B 要請		↔	↔							
	C 参加促進			↔	↔						
若者側への働きかけ											
②大学キャリア教育	A 企画			↔							
連携事業	B 講師				↔	↔	↔	↔			
	C 講義	↔				↔	↔	↔	↔		
③大学営業	A 抽出	↔									
項目	作業	平成 20 年							平成 21 年		
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	D 営業			↔	↔						
④若者キーパーソン	A 抽出	↔	↔								
参加アプローチ	B 要請		↔	↔	↔	↔	↔	↔			
	C 参加促進			↔	↔	↔	↔	↔			
接点構築											
⑤強いジンザイ	A 企画	↔									
育成サロン	B 講師	↔	↔								



●従業員の人数

12名（担当職員：3名、担当非専従職員：3名、外部協力者：6名）

●受益対象者の範囲および人数

- ・愛知県内4年制大学50校に所属する学生
- ・中小企業団体中央会に所属する組合に所属する中小企業の経営者および若手社員
- ・愛知ブランドに登録されている企業（約120社）の経営者および若手社員
- ・愛知県中小企業家同友会に所属する中小企業の経営者および若手社員

III. 実施したイベント

1. イベント名「愛知のチカラコブ」プロジェクト

社長研修会

日 時：08年8月28日18:30～20:30

場 所：名古屋都市センター14階第3会議室

参加者：20名

担当者：右腕プロジェクト

内 容：「愛知のチカラコブ」プロジェクト概要

説明と中部大学キャリアセンター課長

市原幸造氏の講演



2. イベント名「強いジンザイ育成サロン」

第1～8回目授業

日 時：08年9月25日～09年1月15日

18:50～20:20

場 所：愛知産業大学名古屋サテライト教室

参加者：20名

担当者：右腕プロジェクト

内 容：

(1) ガイダンス：サロン授業の概要を説明

(2) コミュニケーション能力養成

(3) 思考力養成1

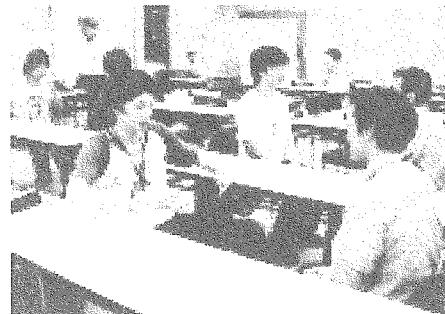
(4) マーケティング力養成

(5) 思考力養成2

(6) プレゼンテーション力養成

(7) 企画力養成①

(8) 企画力養成②



NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

3. イベント名「強いジンザイ育成サロン」

第9回目企業探検隊 バスツアー&合宿

日 時：09年2月13, 14日

場 所：愛知産業大学名古屋サテライト教室→
(株)中西→(株)片岡機械製作所→愛知県青年の家
参加者：15名（学生）、10名（スタッフ）

担当者：右腕プロジェクト

内 容：

- (1) 企業訪問（中西、片岡機械製作所）
- (2) サロンI／サロン振り返り
- (3) サロンI／自分ビジョン&YouMe プラン作成
- (4) サロンII／懇親会
- (5) サロンIII／YouMe 方式ワークショップ
- (6) サロンIII／プレゼンテーションアップ 相談会
- (7) サロンIV／自分夢宣言



4. 「愛知のチカラコブ」プロジェクト

コア会議第1～3回

日 時：08年12月4日、09年1月23日、

09年3月6日 16:00～18:00

場 所：名古屋都市センター（金山）

参加者：25名程度（スタッフを含め）

担当者：右腕プロジェクト

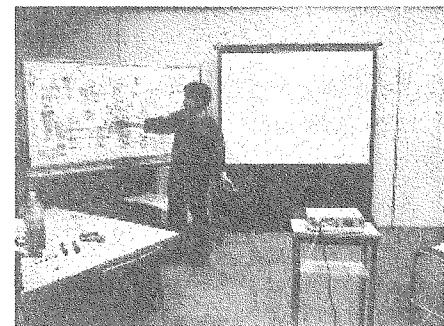
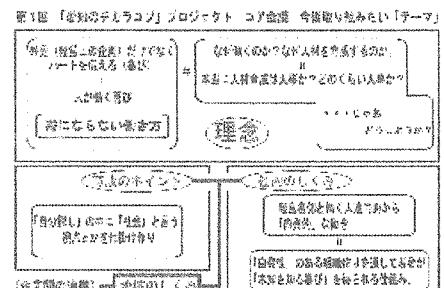
内 容：

地域の中小企業が抱えている人材の確保・育成に関する課題を確認し、問題意識を共有するワークショップを開催した。

第1回会議では、今後自分たちで、具体的に取り組むべきテーマを絞り込んだ。

第2回会議では、第1回会議で出たテーマを把握・整理し、全員で取り組むべきテーマを絞り込み、その対策の種を検討した。

第3回会議では、第2回会議で検討した対策を施さないまま10年が推移した成り行き未来と、対策をしっかりと施した場合の未来を想定した。10年後に、それまでの10年を振り返り、想定した未来予測が描けなかった原因を、全員でイメージした。このイメージを基に、今後の具体的な対策検討につなげていくことにした。



IV. 今後の計画・残された課題

1. 企業への参加アプローチ

8月28日に開催した社長研修会には20社以上の企業が参加した。しかしながら、計画していた3回の社長研修会への参加を表明する企業が現れず、研修会を継続して開催することができなくなってしまった。社長研修会に参加していただく企業の中から、魅力創出エンジン会議（「愛知のチカラコブ」コア会議）に参加する企業を集める計画だった。ところが、社長研修会が開催できず中小企業の経営者にアプローチする方法がなくなったので、愛知県中小企業家同友会（副会長平沼氏を訪問）との連携を模索した。しかしながら、同友会からは事務局の教育担当者が参加していただけたにとどまり、同友会会員企業からの具体的な参加にはつながらなかった。そこで、スタッフが個別に参加企業を募り、「愛知のチカラコブ」コア会議を開催した。

2. 魅力創出エンジン・ネットワーク

「愛知のチカラコブプロジェクト」コア会議として、中小企業経営者、若者（学生）ばかりではなく、中央会・NPO・行政などの支援団体が集まり、自分たちの力で地域の中小企業が抱えている人材の確保・育成に関する課題を解決していくための道筋を作った。来期以降は、作った道筋に沿って具体的な行動を、それぞれの責任範囲のなかで展開していく必要があるとの認識を共有することができた。具体的な活動をどのように展開すべきかについての議論ができなかったので、来期のサロンが始まる9月までは、「愛知のチカラコブプロジェクト」コア会議を継続して開催していく必要があると考える。

3. 愛知県内大学共通単位化講座「強いジンザイ育成サロン」

9月25日の第1回目：ガイダンスを皮切りに、隔週ペースでサロン授業を開催。強いジンザイ育成サロン分科会を中心にして、授業の構成・内容を検討しながら進めた。来期のサロン授業については、本年度同様開催していくことで、日福大の原田先生と合意した。今期のサロン開催に関する問題点、課題を抽出し、来期のシラバスの内容を検討した。サロン授業を開催するに当たり、費用のかからない方法として、開催場所を日福大の鶴舞キャンパスを利用しできることになった（日福大の厚意による）。

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

■まちづくり

Town planning

私たちは自主事業として、「いつももトーク」を展開しています。三者間同時通訳サービスを通じて災害時情報弱者になりがちな在日外国人を支援することで、「災害に強いまちづくり」を目指しています。

●いつももトーク

I. 実施概要

NPO 愛知ネットは災害時に要援護者となりうる在日外国人への連携・支援を行うことを目的に「在日外国人の支援に関する事業」を掲げています。特にポルトガル語、スペイン語を母国語とする方々を対象に、日本で生活するうえでの障害となっている言葉の壁を乗り越えるための支援を行っています。

II. 目標・計画と実績

昨年度末から交渉してきた三好町国際交流協会が、4月より導入を決定し、4月いっぱいをお試し期間とし、5月から正式契約となりました。また、昨年度に引き続き、聖路加看護大学の大学院生藤原さんが研究の一環としている中国語の電話通訳(ユビトス)に、今年度も提携・協力し、安城厚生病院とトヨタ記念病院とで中国語の契約を結びました。

●従業員の人数

6名（担当職員：1名、専従ポルトガル語通訳スタッフ：2名、
外部協力中国語通訳スタッフ：3名）

●受益対象者の範囲および人数

主に愛知県内を中心とする約20,000名の在日外国人
主に東京都内を中心とする約20,000名の在日外国人

III. 實施したイベント

特にありません。

IV. 今後の計画・残された課題

いつももトークは、安城地域サポートセンターに通訳センターを構え、ポルトガル語の通訳スタッフが常駐しています。来年7月をもって、この安城地域サポートセンターとの契約が切れることになり、8月から通訳センターを安城地域サポートセンター以外の場所に移設しなければなりません。

今年度中に、移設を含めいつももトーク通訳センターの在り方を検討する必要があります。

■NPO・市民団体支援

NPO support

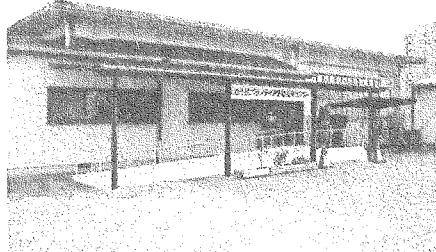
昨年度まで進めてきたボランティアや市民活動を支援するセンターの管理運営を中心とする事業を引き続き実施していきます。今後は地域内分権がより進むことが予測されるため、それぞれの行政区域の特性を活かす事業が求められています。

指定管理者による施設の運営とあわせて、ボランティア及び市民活動の促進を目的に、NPOとしての特性やノウハウを活かした事業をさらに展開していきたいと考えます。

● 刈谷市民ボランティア活動支援センター

センターの概要

場 所 : 刈谷市寿町 1-409
 電 話 : 0566-62-8231
 ファクス : 0566-62-8232
 E-mail : kcv109box@katch.ne.jp
 U R L : <http://www.katch.ne.jp/~kcv109box/>
 開館時間 : 10時～21時 但し、日曜日 10時～17時
 休館日 : 毎週月曜日、年末年始（12月29日～1月3日）
 主な施設 : 交流スペース、談話スペース、作業スペース、情報スペース、メールボックス、ロッカー、障がい者用トイレ、駐車場
 使用料金 : コピー機使用は実費負担、印刷機は無料。但し用紙は利用者が持参
 ※施設、ロッカー、その他機材使用は無料
 談話スペース : 登録団体が打ち合わせ、団体間の交流の場として利用。
 ※テーブルは2島有り18席と18席、36席で利用することも可能
 ロッカー : 活動に必要な備品などを保管する場所として利用。（ロッカー数は、27個）
 メールボックス : 各団体間の連絡、文書・チラシの配布や団体宛の郵便物、ファックスの一時保管場所として利用。（メールボックスの数は、36個）
 作業スペース : 印刷機、紙折機、製本機、丁合機、裁断機、紙そろえ機、ラミネーターを設置。
 *貸出備品 : プロジェクター、ノートパソコン、スタッフコート（10着）、クリスマスツリー（2セット）、サンタクロースの衣装、スポットライト、バルーンアート空気入れ（5本）、ピンゴマシン、布ぞうり製作台（6台）、
 本年度より→ レーザーポインター、ハンドベル、防災カルタ、非常持出しゲーム



センター外観

I. センターの役割と任務

1. 委託業務名・目的

- (1) 業務名 : 刈谷市民ボランティア活動支援センター管理運営委託
- (2) 事業の目的 : 様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する
- (3) 実施期間 : 平成20年4月1日(土)～平成21年3月31日(土)
 (指定管理=平成22年3月31日まで)

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

2. センターの任務

(1) 情報の収集・提供業務

- ①「かりや市民ボランティア活動情報サイト」(ボランティア情報サイト)の管理運営、登録団体の入力作業、イベント情報・ボランティア募集などのコーディネート業務、サイト利用操作説明など
- ②刈谷市民ボランティア活動支援センターのHP作成及び維持管理
- ③メールマガジン及び情報誌(ぱらっち。)等の発行

(2) 活動場所の提供業務

- ①談話室の予約受付、貸出し等利用申し込みの対応
- ②印刷機器等設備の利用に関する事務

(3) 意識啓発・普及業務

- ①意識啓発活動の実施(業務全体を通じて)
- ②啓発チラシパンフレット等の作成・更新

(4) 人材育成・交流業務

- ①人材育成のための研修会を企画・運営(スキルアップ講座等)
- ②市民ボランティア活動団体の交流機会を増加するネットワーク構築
(NPO・ボランティア活動に精通した講師をお呼びし、車座集会を開催)

(5) 相談・連絡調整業務

- ①市民ボランティア活動に関する市民からの相談窓口としての機能(マッチング活動)
- ②NPO法人認証取得のための相談への対応

II. 目標と実績

前年実績の 10%向上を数値目標として、取り組んできた。その結果、上期は表1のように、すべての項目に対して、100%以上の達成率であった。なお年間見通しも達成の見込みである。
今年は、開設 5 周年にあたり節目の年として取り組んでいる。

●従業員の人数:6 人が2シフトで、常時 2 人で対応している。

●受益対象者の範囲および人数

平成 21 年度は刈谷市民を中心に前年比 10% 向上の 12,200 人を目標として活動してきたが、表 1 のように達成の見込みである。(表1の総来館者数を参照)

表1 目標と実績 (H15 年は半年間の活動実績。H20 年に個人会員の見直しを実施し 45 人が退会)

	H15 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年実績	
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	前年比
総来館者数	2,512 人	6,260	6,917	8,392	11,072	12,313 人	111%
相談件数	139 件	227	472	554	624	706 件	113%
マッチング件数	11 件	49	54	62	71	78 件	110%
団体登録	130 団体	179	208	227	253	284 団体	112%
個人登録者	7 人	33	62	105	129	116 人	125%

III. 計画と実績

車座集会は年間5回、スキルアップ講座も年間5回が協定書での計画であるが、実績は下記のとおり、車座集会は6回、スキルアップは7回実施した。また特別イベントとして遊防災、NPO事業報告セミナーの開催協力を、追加して実施した。

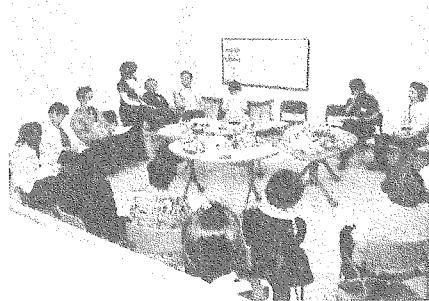
講座以外の特別活動として、センター横の空き地を利用して、温暖化対策のグリーンカーテン、センター内に初心を忘れないように赤提灯の設置、また10月は5周年記念事業として、感謝祭(ぜんざいのふるまい)、5周年記念誌の発行を実施してきた。

IV. 実施したイベント

1. 車座集会

(1) 第25回車座集会

日 時： 2008年4月19日（土）18:30～20:00
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 参加者： 15名（NPO代表者）
 講 師： 司会 センタースタッフ
 担当者： スタッフ全員
 内 容： 刈谷市内の認証NPO団体間の交流会



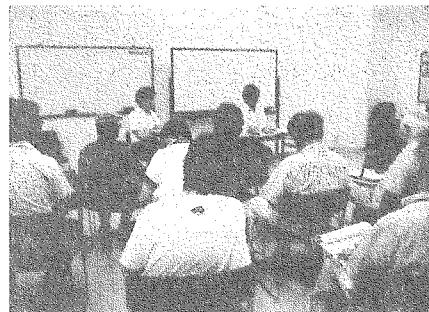
(2) 第26回車座集会

日 時： 2008年5月24日（土）18:30～20:00
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 参加者： 25名
 講 師： 新井博文氏（デンパーク 常務理事）
 担当者： スタッフ全員
 内 容： 職員の創意と市民の力でつくる新たなデンパークというテーマで実施



(3) 第27回車座集会

日 時： 2008年7月5日（土）18:30～20:00
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 参加者： 18名
 担当者： スタッフ全員
 講 師： 澤田 忍氏
 （刈谷ハイウェイオアシス部長）
 内 容： 地域に密着したハイウェイオアシスの成功の秘訣というテーマで実施



NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

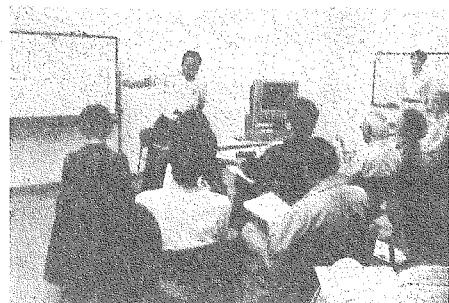
(4) 第 28 回車座集会

日 時： 2008 年 7 月 25 日（金） 19:00~20:15
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者： 24 人
講 師： 南里 幸氏（NPO 愛知ネットスタッフ）
内 容： 宮城内陸地震の現場体験から被災現場から
見えてきたことというテーマで実施



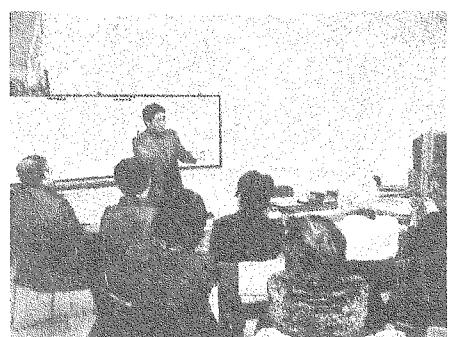
(5) 第 29 回車座集会

日 時： 2008 年 10 月 4 日（土） 18:30~20:00
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者： 23 人
講 師： 石川 伸氏（おとうふ工房石川 社長）
内 容： 支援センター開設 5 周年記念事業として、
「おとうふ作りは人作り」のテーマで実施



(6) 第 30 回車座集会

日 時： 2009 年 1 月 31 日（土） 18:30~20:00
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者： 29 人
講 師： 大西 光夫氏
(特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ理事長)
内 容： これからのはまちづくり
～たすけあう、ささえあう、みんなでつくる～



2. スキルアップ講座

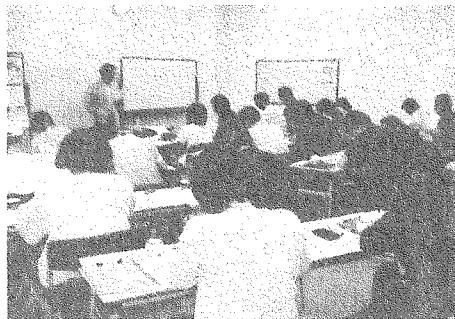
(1) 第 22 回スキルアップ講座

日 時： 2008 年 4 月 1 日（火）～6 日（日）終日
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者： 79 グループ
講 師： 進行 センタースタッフ
担当者： スタッフ全員
内 容： 誰でも気軽にできる収集ボランティアの体
験特別週間として実施



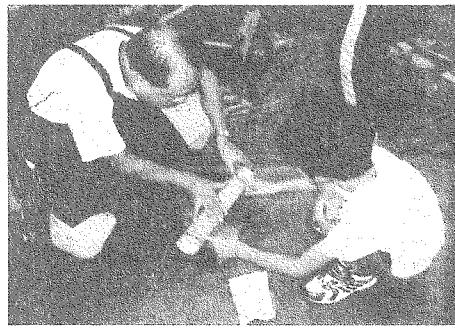
(2) 第23回スキルアップ講座

日 時： 2008年6月7日（土）18:30～20:00
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 参加者： 25人
 講 師： 舟橋 正浩氏（NPO愛知ネットスタッフ）
 担当者： スタッフ全員
 内 容： 助成金を生かそう“伝わる申請書の書き方”
 というテーマで実施した。



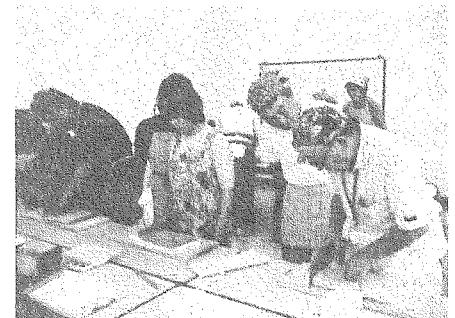
(3) 第24回スキルアップ講座

日 時： 2008年7月30日（木）10:00～13:30～
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 参加者： 33人
 講 師： 清水敏和氏（刈谷おもちや病院副院長）
 担当者： スタッフ全員
 内 容： 竹の輪つかで自然のオブジェをつくろうとい
 うテーマで実施した。午前午後2回実施し
 た。



(4) 第25回スキルアップ講座

日 時： 2008年10月10日（金）10:00～12:00
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 参加者： 7人
 講 師： 前田ゆきひろ氏（個人会員）
 担当者： スタッフ全員
 内 容： 支援センター開設5周年記念事業として、
 「そば打ち体験講座～そば粉でつなぐボラ談
 義～」というテーマで実施



(5) 第26回スキルアップ講座

日 時： 2008年10月26日（日）10:00～13:30
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 参加者： 13名
 講 師： 米田正寛氏
 （少林寺拳法連盟刈谷南支部長）
 担当者： スタッフ全員
 内 容： 支援センター開設5周年記念事業として、
 「いざ！護身術 自分を守ろう！心を磨こ
 う！」というテーマで実施



NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

(6) 第 27 回スキルアップ講座

日 時： 2008 年 10 月 28 日（火） 10:00~12:00
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者： 16 名
講 師： 高井邦彦氏
(自然に学びローゼルを育てる会代表)
担当者： スタッフ全員
内 容： 全員支援センター開設 5 周年記念事業として、「ローゼルジャムをつくりながら環境について考えてみよう」というテーマで実施



(7) 第 28 回スキルアップ講座

日 時： 2008 年 12 月 2 日（火） 13:00~15:30
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者： 13 名
講 師： 西村あき子氏（ふれあい広場幸代表）
担当者： スタッフ全員
内 容： 支援センターの年末恒例のしめ縄作り講座を実施、5 年連続 5 回目の開催。



3. 特別イベント

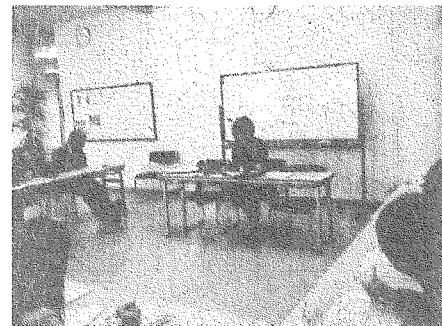
(1) あそぼうさい（遊防災）

日 時： 2009 年 3 月 7 日（土） 10:30~15:00
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者： 155 名
内 容： 幼い子どもや親、高齢者などを主たる対象としゲーム感覚の防災イベントを開催した。非常持出しゲーム、アルファー米・豚汁の炊出し簡単応急方法など楽しみながらの訓練を実施。



(2) N P O 事業報告セミナー&相談

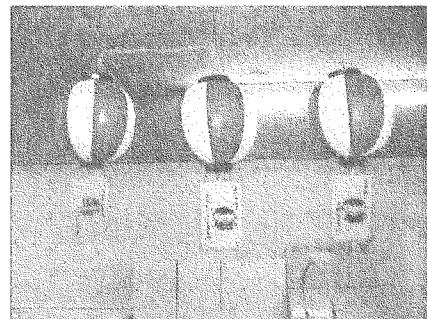
日 時： 2009 年 2 月 11 日（水） 10:00~15:00
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
参加者： 11 団体 15 名
内 容： N P O 事業報告書も 3 月からインターネット開示になるのを契機に、愛知県が出張セミナーと相談を当センターで開催したので、募集や受付など積極的な協力を行った。



4. その他の活動

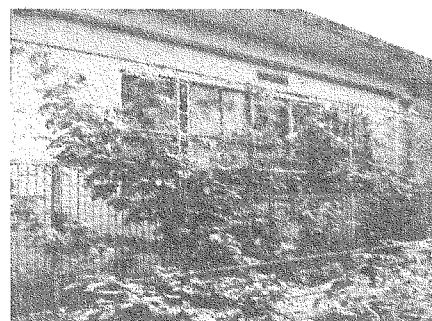
(1) 赤提灯の設置

日 時： 2008年4月12日（土）～ 常時
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 内 容： センターのモットー：「敷居の低いセンター」を忘れないために設置した。



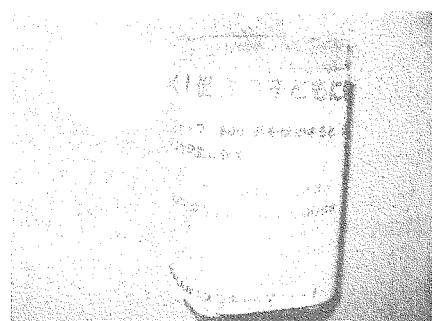
(2) グリーンカーテンの設置

日 時： 2008年7月4日（金）～ 9月30日（火）
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 内 容： 刈谷市の施策を盛り上げるため、センター横の空き地に「ゴーヤ」を植え、グリーンカーテンを作り、啓発を行った。



(3) エコキャップの回収活動

日 時： 2008年9月18日（木）～ 常時
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 内 容： エコキャップを回収して、ワクチンにかえ、途上国の子どもの命を救う活動に参画を始めた。
 (800個で20円、ワクチン1本分)



(4) 5周年記念オカリナコンサート

日 時： 2008年10月1日（木）～ 常時
 場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
 内 容： 5周年記念イベントとして、「アイリスオカリナサークル」によるコンサートを実施。100名位の来館者あり。



NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

(5) 5周年記念誌発行

日 時： 2008年10月吉日
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
内 容： 支援センター設立5周年記念誌を発行



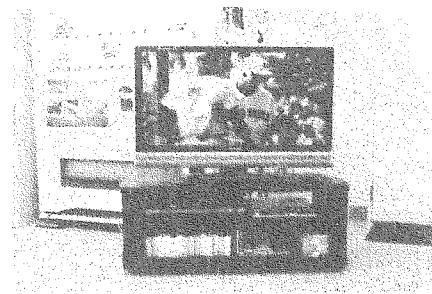
(6) キッズ用品の贈呈式

日 時： 2008年11月29日(土)16:00～
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
内 容： 刈谷市婦人会連絡協議会よりキッズ用品一式を寄贈いただきました。



(7) 市民からテレビ寄贈

日 時： 2009年3月26日(木)10:00～
場 所： 刈谷市民ボランティア活動支援センター
内 容： 刈谷市民の心ある方から、市役所に当センターへ指定寄付があった。今後はテレビがアナログから地デジに変わることから、37インチの液晶テレビが寄贈された。ありがとうございます。



IV. 今後の計画・残された課題

1. まとめ

- (1) 今年の4月から、なごやボランティア・NPOセンターの指定管理がNPO法人ワーカーフィールドに決まった。このことを刈谷のセンターも謙虚に反省し、取り組んできた。
- (2) 今年度は開館5周年という記念すべき年であり、イベントに5周年の冠をつけ、盛り上げてきた。また、5年間の活動実績を、5周年誌を発行しまとめることができた。
- (3) センターの活動評価として、来館者数などの数値目標を毎年10%アップとして、活動してきた結果、5年間で倍増以上の実績となった。
- (4) はじめの3年間、「愛されるセンター」をスローガンに、あの2年間は「信頼されるセンター」をめざして活動してきた。2008年11月には、刈谷市婦人会連絡協議会から、センターを充実したいからと、20万円相当のキッズ用品の寄贈。2009年3月には、市民（個人）からセンターにお世話になっているからと、地デジ対応の液晶テレビを寄贈していただいた。5年間の疲れが一気に吹っ飛んだ、温かい、ありがたいことでした。

2. 今後の課題

新年度は、センターをとりまく環境、課題を踏まえて活動する。特に世界規模の課題である、温暖化（地球環境）対策を踏まえた環境分野の活性化を意識した活動。また刈谷市は3月に協働の基本条例が制定されて、協働元年ともいえる年である。

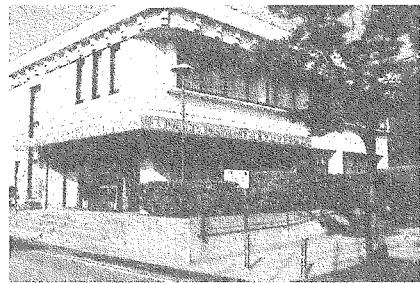
- (1) スローガンは、頼りになるセンターをめざす。（愛されるセンター→信頼されるセンター→）

- (2) 点(個人)のマッチングから行政・地縁団体を意識した団体間のマッチングにも重点を置く。
- (3) エコ(環境)を意識した講座を開催する。
- (4) それを達成するためには、スタッフのスキルアップが不可欠であるので、自己啓発の積極的推進。(コーディネート能力、ファシリテーター能力、他のセンターとのネットワーク化・交流など)

●安城市民活動センター／わくわくセンター

センターの概要

場 所：安城市大山町1-7-1
 電 話：0566-71-0601
 ファクス：0566-71-0668
 E-mail：center@katch.ne.jp
 U R L：<http://www.katch.ne.jp/~center>
 開館時間：9時～21時
 休館日：毎週月曜日（但し、月曜日が祝日の場合は直後の休みでないが休館。）及び、年末年始（12月28日～1月4日）
 主な施設：交流スペース、作業スペース、情報スペース、ロッカー、障がい者用トイレ、駐車場
 使用料金：コピー料金は実費負担、印刷機は無料。但し用紙は利用者が持参。その他の施設は無料
 交流スペース：登録団体が打合せの場として利用。テーブル2セット、各椅子6脚
 作業スペース：印刷機・紙折機・裁断機・丁合機・製本機・電動ホチキス・ラミネータを設置
 情報スペース：インターネット閲覧可能なパソコン1台、カラープリンター、ちらしラックを設置
 ロッカー：活動に必要な備品などを保管する場所として利用。（ロッカー数は、36個）
 貸出し備品：プロジェクター、スクリーン、ノートパソコン2台
 その他：コピー機



I. センターの役割と任務

1. 委託業務名・目的

- (1) 業務名：安城市民活動センター運営・交流事業委託
- (2) 事業の目的：様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する。
- (3) 実施機関：平成20年4月1日～平成21年3月31日

2. センターの任務

- (1) 情報の収集・提供業務：あんじょう市民情報サイト、メルマガ、HP等の維持管理
- (2) 活動場所の提供業務：施設利用、機器の活用等の管理と団体運営の相談業務の遂行
- (3) 意識啓発・普及業務：各種説明会、施設めぐり対応、社協・生涯学習課との連携
- (4) 人材育成・交流業務：スキルアップ講座、ミニ講座等を通した人材育成に関する企画・運営
- (5) 相談・連絡調整業務：NPO立上げ相談、各種マッチング活動の推進

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

II. 目標・計画と実績

1. センターの利用実績

(1) 団体登録 (平成 16 年度は平成 17 年 1~3 月の実績) 総登録数 : 274 団体

	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
登録団体数	54 团体	114 团体	54 团体	28 团体	24 团体

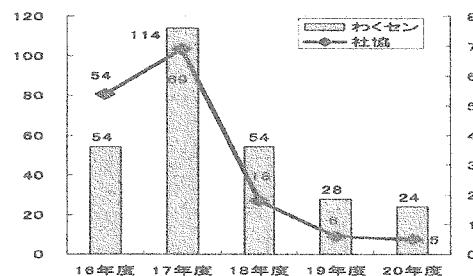
(平成 20 年の現状は 26 団体の実績で 276 団体となるが、2 団体の削除で 24 団体となった)

(2) 個人登録 総登録者数 : 67 名

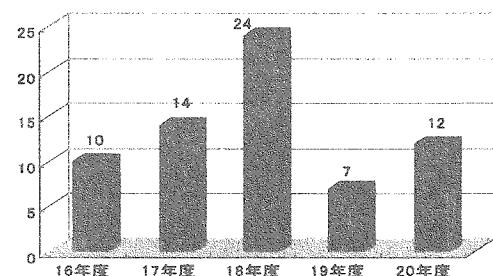
	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
登録者数	10 人	14 人	24 人	7 人	12 名

(ボランティア要請に応えるには、多くの個人ボランティアの登録が必要で、その確保が各種のニーズに応えることとなる。積極的な個人登録へ呼びかけが必要)

団体登録の年度推移



個人登録の年度推移

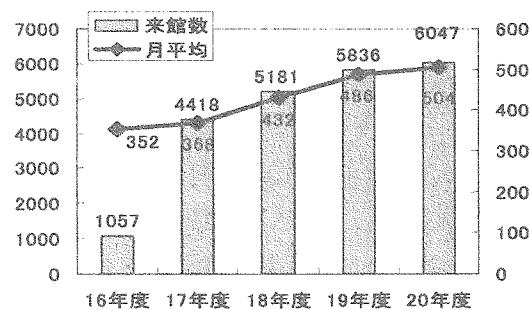


(3) センターの利用者

	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度
来館者数	1,057 名	4,318 名	5,181 名	5,836 名	6,047 名
会議人員数	245 名	912 名	974 名	1,565 名	1,354 名
相談者数	103 名	325 名	499 名	326 名	277 名
印刷作業人数	151 名	894 名	1,426 名	1,400 名	1,354 名
その他来館者数	558 名	2,187 名	2,282 名	2,545 名	2,108 名

(平成 17 年 1 月 5 日開設からの来館人員 : 22,539 名)

来館者数の年度推移

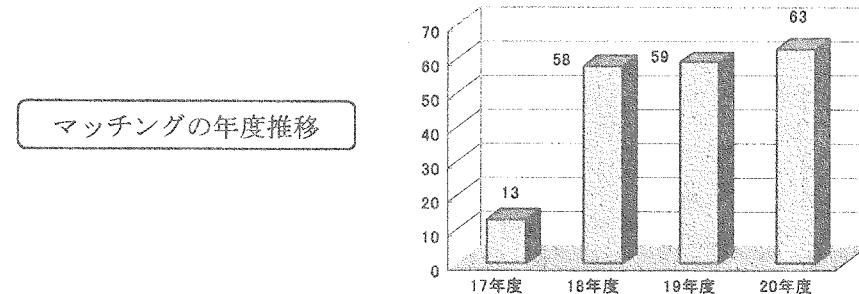


2. 相談機能の向上

(1) 相談・マッチング実績

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
相談組数	28組	138組	384組	237組	213組
マッチング件数	1件	12件	58件	59件	63件

(安城市民活動センターの評価尺度の一つと考え、親身な相談対応が更なる幅広いマッチング活動に結びついてゆく)



III. 実施したイベント

1. わくわくサロンの開催

(1) 第20回わくわくサロン

「ボランティア活動、思いやりを行動に」

日 時：平成20年5月24日（土）18:30～20:00

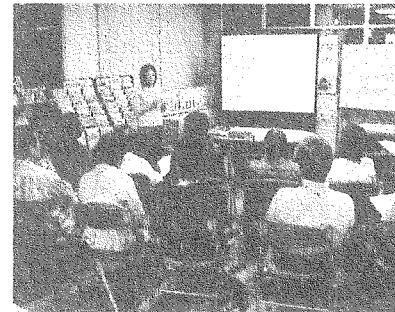
場 所：秋葉いこいの広場レストハウス

参加者：14名

ゲスト：デンソーボランティア支援センター

大須賀 恵子氏

内 容：企業のボランティア活動について



(2) 第21回わくわくサロン 「緑はふるさとをまもる！」

日 時：平成20年7月25日（土）18:30～20:00

場 所：秋葉いこいの広場レストハウス

参加者：11名

ゲスト：エコネットあんじょう 会長 神谷 輝幸氏

内 容：環境首都・安城の実現にむけて、熱く語って頂いた。



NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

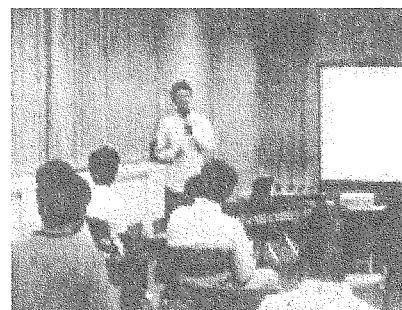
(3) 第22回わくわくサロン 「知って得する^{団体}社協」

日 時：平成 20 年 9 月 20 日（土）18：30～20：00
場 所：秋葉いこいの広場レストハウス
参加者：20名
ゲスト：安城市社会福祉協議会 職員 野々山 行成氏
内 容：市民が主役の福祉のまちづくりについて



(4) 第23回わくわくサロン 「飛べ！みんなの夢を乗せて」

日 時：平成 20 年 10 月 11 日（土）18：30～
場 所：秋葉いこいの広場レストハウス 多目的ホール
ゲスト：北海道大学教授、NPO 北海道宇宙科学技術創
センター理事 永田 晴紀教授
参加数：25名
内 容：ハイブリットロケットエンジンで地域が支えるみん
なの宇宙開発について語って頂いた。



(5) 第24回わくわくサロン 「暮らしの小さなお手伝い～もやいの輪、和～」

日 時：平成 20 年 11 月 21 日（金）18：30～
場 所：秋葉いこいの広場レストハウス 多目的ホール
ゲスト：特定非営利活動法人もやい 代表 安井 洋子さん
参加数：21名
内 容：助け合いの輪を（和）を広げ、誰もが安心して老い
も若きも誰もが安心して住める地域づくり。



(6) 第25回わくわくサロン 「人がすべて～地域の才能（ひと）をボランティアで活かす」

日 時：平成 21 年 1 月 30 日（金）18：30～
場 所：秋葉いこいの広場レストハウス 多目的ホール
ゲスト：ボラミミより情報局 代表 織田 元樹さん
参加数：18名
内 容：人がすべて～地域の才能（ひと）をボランティアで
活かすをテーマにお話頂く



2. スキルアップ講座

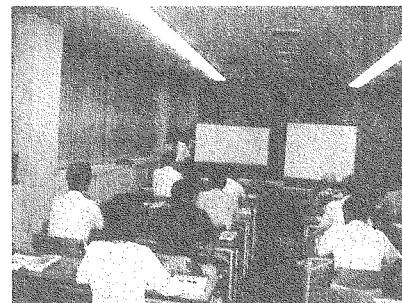
(1) 第14回スキルアップ講座 「活動を効果的にPRする“コツ”」

日 時：平成20年6月27日（金）18:30～20:00
 場 所：秋葉レストハウス 多目的ホール
 参加者：19名
 講 師：デザイン会社 MEETS 代表 小島 祥次氏
 内 容：チラシ・リーフレットづくり



(2) 第15回スキルアップ講座 「活動記録をビデオで残そう・伝えよう！撮影のコツ！！」

日 時：平成20年8月22日（金）18:30～20:00
 場 所：秋葉レストハウス 多目的ホール
 参加者：18名
 講 師：ビジュアルプロジェクト代表 加藤 行延氏
 内 容：映像の撮り方テクニック



(3) 第16回スキルアップ講座 「写した写真をきれいに魅せたい人に！」

日 時：平成20年12月13日 10:00～12:00
 場 所：秋葉レストハウス 多目的ホール
 参加者：先着 20名
 講 師：NPO法人愛知ネット 事務局長 大野 裕史氏
 内 容：デジカメ写真の編集テクニック



(4) 第17回スキルアップ講座 「企業から学ぶ、人材育成」

日 時：平成21年2月20日（金）13:00～
 場 所：アイシンエイダッブリュ株式会社
 講 師：アイシン AW 総務部社会貢献チーム
 参加数：22名
 内 容：アイシン AW の人材育成、地域貢献活動を学ぶ



N. 今後の計画・残された課題

1. 安城市民活動センターの移転計画の準備。
2. スタッフのスキルアップ。→ボランティアコーディネータ、防災コーディネータ等
3. 個人登録者の確保とスキルアップ。

NPO 愛知ネット 活動記録 2008 すべての活動は、災害時の情報のために

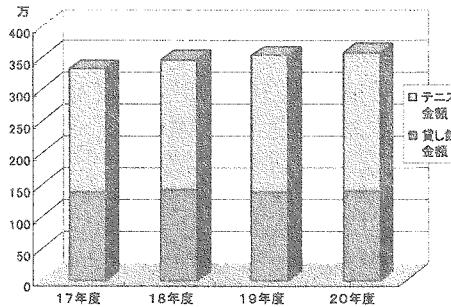
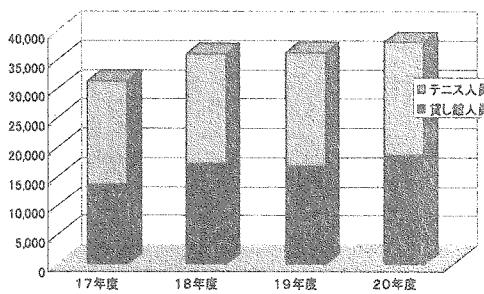
●秋葉いこいの広場秋葉レストハウス

I. 実施概要

- (1) 業務名：秋葉いこいの広場 レストハウス管理運営委託管理
- (2) 管理に関する業務：レストハウス貸し館、テニスコート受付管理
- (3) 利用者に対するサービス：自主事業の実施
- (4) 実施期間：平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日

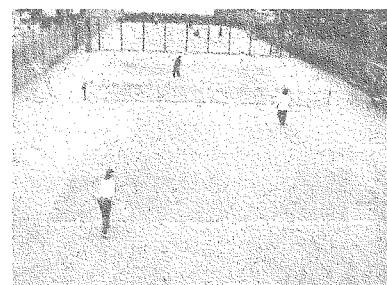
II. 目標・計画と実績

- (1) 利用人員：年平均利用人員 37,891 人【前年比 105%】
- (2) 利用金額：3,585,326 円【前年の 102%】



III. 実施したイベント

- (1) 第2回「秋葉チャリティテニスカップ」開催
とき：平成 20 年 10 月 26 日（日）
会場：秋葉レストハウス
テニスコート A, B コート
参加者：48 名（男子 12 チーム、
女子 12 チーム）
種目：ミックスダブルス
午前の部 12 組、午後の部 12 組
試合：ブロック別予選
ブロック 1 位の決勝トーナメント
参加費：チーム 1,000 円
協力：秋葉いこいの広場テニスコート利用者
寄付先：安城善意銀行



●新センター受託

I. 実施概要

大府市と豊橋市とが市民センター指定管理者を募集しました。大府市、豊橋市の市民センターの指定管理者に応募することにし、企画書などを作成し、プレゼンテーションを実施しました。大府市民活動センターには、NPO愛知ネットのほかに、NPO法人ネットワーク大府が名乗りを上げたが、企画書とプレゼンテーションの内容で評価された結果、NPO愛知ネットが指定管理者として指定されました。

豊橋市民センターでは、説明会には9社が参加したにもかかわらず、NPO愛知ネットと施設管理会社（名称不明）の2社での競合となった。豊橋市民センターについては、10月17日にプレゼンテーションを実施し、指定管理者としての指定を受けた。

1. 大府市民活動センターの概要

- (1) 所在地 大府市森岡町四丁目8番地
- (2) 設置年月日 平成21年 4月 1日
- (3) 施設面積 596.87m²
- (4) 床面積 577.57m²
- (5) 施設構造 鉄骨造（平屋）
- (6) 施設内容
 - ① 会議室、団体活動室、ロッカー、料理室、メールボックス、印刷室、相談室、事務室、交流室
 - ② 駐車場 684m²24台（障害者用2台含む）※予定
- (7) 主な事業
 - 1. 市民活動に関する相談及び援助に関する事業
 - 2. 市民活動に関する情報の収集及び提供に関する事業
 - 3. 市民活動のための場の提供に関する事業
 - 4. 市民活動に関する研修及び学習の機会の提供に関する事業

2. 豊橋市民センターの概要

- (1) 施設名称 豊橋市民センター
- (2) 所在地 豊橋市松葉町二丁目 63 番地
- (3) 敷地面積 404.55 m²敷地面積 404.55 m²
- (4) 建築面積 342.69 m²
- (5) 延床面積 1,998.35 m²
- (6) 開館年月日 平成4年4月20日
- (7) 施設構造 鉄骨筋コンクリート造地下1階（一部地下2階）地上6階建
- (8) 設備 多目的ホール（定員99人）、大会議室（定員90人）、中会議室（定員63人）、小会議室（定員24人）、第1ミーティングルーム（定員10人）、第2ミーティングルーム（定員10人）、第1相談室、第2相談室、講師控室、市民活動プラザ（会議室、交流サロン、ミーティングスペース、印刷室、NPO資料コーナー）、事務室、倉庫、機械室、トイレ、給湯室、行政資料コーナー
- (9) 施設目的：市政に関する情報の提供、各種の相談、集会、交流及び市民活動の施設として市民の利用に供し、もって市民福祉の増進及び市民協働の推進を図る。

II. 目標・計画と実績

1. 大府市民活動センター提案

- (1) 募集要領等の配布 平成20年7月1日（火）
- (2) 質問書の受付 平成20年7月10日（木）～平成20年7月17日（木）
- (3) 上記回答 平成20年7月22日（火）
- (4) 申請書の受付 平成20年7月23日（水）～平成20年8月15日（金）

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

- (5) プロポーザル 平成20年8月27日（水）午後1時30分～
- (6) 選定結果の通知 平成20年11月中旬予定
- (7) 指定管理者の指定 平成20年12月下旬予定（市議会の議決を経た後）
- (8) 指定管理者との協定締結 平成21年3月中旬予定

2. 豊橋市民センター提案

- (1) 募集要項及び仕様書の配布 平成20年7月1日（火）～7月27日（金）
- (2) 現地説明会 平成20年7月28日（月）
- (3) 質問受付期間 平成20年7月29日（火）～8月8日（金）
- (4) 質問回答日 平成20年8月19日（火）
- (5) 申請受付期間 平成20年8月20日（水）～8月29日（金）
- (6) 書類審査及び面接審査 平成20年10月上旬
- (7) 指定管理者の決定及び通知 平成20年10月下旬
- (8) 指定管理者の指定 平成21年3月

3. 大府市・豊橋市の市民センター設置準備

- (1) 市担当者との打ち合わせ（10月～3月）
- (2) 社協、地元自治組織との顔合わせ、挨拶（1月～3月）
- (3) スタッフ候補の確保（10月～2月）
- (4) 大府：大野（センター長）、田中および新規募集の女性3名、男性3名が確保できた
- (5) 豊橋：天野（センター長）、新卒新入の若手1名が確保、残り6名程度確保が必要
- (6) スタッフ候補の研修（2月～3月）
- (7) スタッフ研修のためのカリキュラム作成中
- (8) オープン準備（3月）
- (9) プレオープン（3月24日～3月28日）
- (10) 従業員の人数：3名（担当職員：3名）
- (11) 受益対象者の範囲および人数：大府市民および豊橋市民

●従業員の人数

3名（担当職員：3名）

●受益対象者の範囲および人数

大府市民および豊橋市民

III. 実施したイベント

特にありません。

IV. 今後の計画・残された課題

- ・ワンデーシェフへの対応として、協力先の確保と交渉（大府市）
- ・来館者の確保と業務の定常化

■その他

Others

ファンドレイジングイベント・愛フェスは、「人と社会の変革」を目指します。

現在、企業や行政では、さまざまな新しい社会サービスを提案・遂行され「社会の変革」を目指して取り組みが行われています。NPOはそれにプラスして「人の変革」にも取り組んでいく必要があると考えます。なぜなら、社会は人の集合体であり、一人一人の意識を変えることが、社会の変革の推進につながるからです。キーワードとなるのは、先人からの教えである「お互い様」「おかげさま」です。私たちはこのような気持ちを持った人が一人でも多い社会にしていきたいのです。ファンドレイジングは、直訳すると資金開拓ですが、肝心なのは資金確保そのものではなく、社会活動の意義や大切さを一人でも多くの人に理解していただくことです。それは人々が「NPOを正しく理解する」ことにもつながっていきます。さらに、イベントを通じて、実際に社会活動をしている人たちから共感や感動を伝える術を学び、全参加者が「未来の地域を考え行動する」ことにつながることを期待しています。

●愛フェス

I. 実施概要

1. 来年9月4日・5日・6日の3日間において、愛・地球博記念公園にて、ファンドレイジング・イベント「愛フェス」を開催するため、本年度は準備期間として開催実現に向けて様々な準備を行う。

II. 目標・計画と実績

1. 別紙参照
 - (1) 従業員の人数：準備期間にて、現在2名（天野・深谷）
 - (2) 受益対象者の範囲および人数：県内参加者 5万人

III. 実施したイベント

1. 現在開催準備事務局設置段階であり、詳細については説明いたします。

IV. 今後の計画・残された課題

1. 2008年10月 実行委員会設立
2. 2009年2月プレスリリース
3. 2009年3月参画ブース公募
4. 2009年5月イベント参加公募締め切り
5. 2009年6月公式スポンサー確定
6. 2009年7月チケット販売

平成20年7月28日 中部経済産業新聞

中小の採用活動支援

NPO愛知ネット 社長研修会を開講

特定非営利活動法人NPO愛知ネット(安城市、天野竹行理事長)は、中小企業の若手人材確保を支援する「社長研修会」を八月から来年二月にかけて開催する。自社の魅力を発信するための方法を学ぶほか、学生とのディスカッションや交流も行う。卒業見込みの学生や第二新卒などで若者の採用に力を入れている企業を募集している。研修会では、愛知県内のすべての大学が共通単位化している講座「強いジンザイ育成サロン」と連携。サロンに参加する学生との意見交換などを通じて、効果的に自社のアピールができる。期間は八月二十八日から来年二月十四日までの計四回。参加定員は三十社を予定し、参加費は十八万円。申し込みは、愛知県中小企業団体中央振興部(電話052-229-0044)まで。

中小の採用活動支援

NPO愛知ネットは、中小企業の若手人材確保を支援する「社長研修会」を開講。八月から来年二月にかけて、毎月二回開催される予定だ。研修会では、愛知県内の大学が共通単位化している「強いジンザイ育成サロン」と連携し、学生との意見交換などを通じて、効果的に自社のアピールができる。期間は八月二十八日から来年二月十四日までの計四回。参加定員は三十社を予定し、参加費は十八万円。申し込みは、愛知県中小企業団体中央振興部(電話052-229-0044)まで。

平成20年8月16日(土曜日) 中日新聞

中小社長対象に企業PR術伝授 28日から研修会

愛知県中小企業団体中央会と特定非営利活動法人(NPO法人)NPO愛知ネット(愛知県安城市)が、若者に企業の魅力をアピールするノウハウを中小企業に伝授する「社長研修会」を二十八日から開く。

若者の採用に力を入れる中小企業の経営者が対象で、今年で三回目。二十八日と十月九日、十二月四日、来年二月十三、十四日の計五日間で、会費は十八万円。

年月	2008年(平成20年)8月16日(土曜日)	11版
中央会と特定非営利活動法人(NPO法人)NPO愛知ネット(愛知県安城市)が、若者に企業の魅力をアピールするノウハウを中小企業に伝授する「社長研修会」を二十八日から開く。	中小社長対象に企業PR術伝授 28日から研修会	28日から研修会
~	~	~
~	~	~
~	~	~

平成20年10月1日 中日新聞 西三河版

安城市議ら防災勉強会 大地震に備え

発生が懸念される大規模地震に備え、安城市的市議らが三十日、市文化センターで防災勉強会に臨んだ=写真。市内に拠点を置いて災害支援活動をするNPO愛知ネットの呼び掛けで開催。会派を超えて三十人の市議全員が参加し、災害時の役割について考えた。

会場では防災科学技術研究所の研究員らが、実例を交えて講義。市議らは熱心にメモをとって話を聞き入った。勉強会は今回を含め、来年二月までに計四回行う予定。



平成 20 年 8 月 8 日 中日新聞

東海3県の高校生新聞の作り力学ぶ 岡崎でNIE講座

中日新聞社NIE事務局の新聞講座「教育に役立つ新聞活用」が七日、岡崎市美合町の県青年の家であり、東海三県の農業高校生六十九人が新聞の作り方やメディアの役割を学んだ=写真。二十四の農業高校が集い、六日から二泊三日の日程で県青年の家で催されている「東海ブロック学校農業クラブ」の幹部講習会の一環として開かれた。

同事務局の渥美勝朗委員（六四）は「本当に大事なことが、『伝わりやすい』ことが肝心」と、記事の書き方のさわりを解説。門協力講師（六七）は、記事に見出しつけてレイアウトする整理記者の仕事を「食材（原稿）を盛り付ける料理人」と例え、分かりやすく説明した。

生徒たちは、この日の講座を自分なりに紹介する記事に挑戦。真剣な表情で原稿用紙に向かった鶴城丘高校（愛知県西尾市）二年の藤崎沙彩さん（一六）と内田葵さん（一六）は「教わったことを少し柔らかく応用して、すぐ応用して、すてきな学校農業新聞を作りたい」と笑顔で話した。

平成 20 年 9 月 1 日 中日新聞
安城の N P O 調整に大活躍

専門知識を持つ特定非営利活動法人（NPO法人）のスタッフたちが、豪雨の被災地に集まるボランティアの運営を支えている。

愛知県安城市のNPO愛知ネットは「ボランティアを支えるボランティア」として二十九日に同県岡崎市入りした。

東海豪雨や新潟県中越沖地震、岩手・宮城内陸地震などの災害現場に出動した経験を生かし、同日朝から二人を派遣。三十一日には五人が市防災ボランティア支援センターの受け付け業務やスタッフ間の調整役などを務めた。

雨脚が強まった三十日には支援センターの会議で二次災害を防ぐため、ボランティア活動の打ち切りも勧めた。愛知ネットの大野裕史事務局長（五六）は「ボランティア意識の高い人は危険な状況でも無理をしがち」と語る。「一日からは平日で、被災者からの派遣希望が増える一方で、ボランティアは少なくなるだろう」と大野事務局長は今後もボランティアが必要と訴える。

また名古屋市千種区のNPO法人「レスキューストックヤード」は「水害には泥水を洗うデッキブラシが必要」(栗田暢之代表)と経験に基づき、ブラシと一輪車を二トン車に積み込み、二十九日に岡崎市に届けた。

NPO 愛知ネット マスコミ・メディア活動記録 2008
すべての活動は、災害時の情報のために

平成 20 年 11 月 28 日 中日新聞 知多版

3 施設の管理者選定 大府市 12月議会に上程へ

大府市は、二〇〇九年度から市の三つの施設を管理する指定管理者を選定した。十二月議会に上程する。

来年四月にオープンする市民活動センター（森岡町）は、特定非営利活動法人（NPO法人）エヌピーオー愛知ネット（安城市）。

同センターは住民の自主的な街づくり活動を支援する施設。N P O設立の準備や団体の交流の場として、参加したい人への情報提供を行う。愛知ネットは安城、刈谷市でも市民活動センターの指定管理者を受けている。災害時の救援活動を中心に一九九九年に設立された団体。

ホールや会議室のある石ヶ瀬会館（江端町）は市内のNPO法人ミュー・ぷらん・おおぶ。男女共同参画を進めるために今年四月に法人化した団体。自然体験学習施設「ニッセ池セレトナ」は株式会社アクティオ（東京）。

文化のみち二葉館（名古屋市東区）などに実績がある。

市内では既に十四施設が五つの指定管理者により運営されている。 (長坂圭枝)

平成 20 年 12 月 3 日 中日新聞 西三河版

岡崎市が登録制度 一般、専門2部門に30団体予定

絵画ボランティア効率向上

支援センターも強化。運営と調整役派遣8日に5団体と協定

八月末の集中豪雨被害を教訓に、岡崎市は災害ボランティアを効率的に受け入れる体制を整える。被災地で活動するボランティアグループを事前に登録する制度を創設し、受け付けをスタートさせた。災害時に設置する市災害ボランティア支援センターの運営やコーディネーターの派遣を担当する五つの団体と、八日に協定を結ぶ。(相坂穂)

登録制度では、組織力や特殊技能を生かした活動が可能な各種グループに事前登録してもらう。具体的には、優れた家具の搬出や清掃など危険を伴わない作業を担う一般ボランティアと、看護師や保健師、ヘルパー、手話通訳などの専門ボランティアの二部門で募集する。既に三十団体が登録を予定している。

協定は、岡崎市社会福祉協議会、災害ボランティアおかざき、災害ボランティア一歩の会額田、安城市のNPO法人愛知ネット、名古屋市のNPO法人レスキューストックヤードと結ぶ。市の委託で市社協は災害ボランティア支援センターを運営。ほかの四団体は被災住民からの支援要請とボランティアを調整するコーディネーターを同センターに派遣する。

市福祉総務課の担当者は「集中豪雨で、コーディネーターや組織強化の重要性を認識した。登録制度では、ボランティア団体のメンバーに身分証明書も配る。被災者に安心して受け入れてもらえるようになるのでは」と話している。

災害ボランティア 効率向上



支援センターも強化

の販売の新規開拓の意図が窺えた。また、次回示す「ティア五橋センター」は、福島市役所で

一般、専門 2部門に30団体予定

岡崎市が登録制度

平成 21 年 1 月 17 日 剣谷ホームニュース

■ 第 30 回車座集会

3 1 日(土)後 6・30-8、寿町の市民ボランティア活動支援センター。ゲストを囲んで和やかに交流する会。同センター主催。町づくりなどをサポートする「NPO 法人ボランタリーネイバーズ」の大西光夫理事長が「これからのもちづくり」をテーマに話す。参加費 100 円(お茶代)。定員 20 人。事前の申し込みが必要。

81 回目
第 30 回車座集会
開催地：30-8
寿町の市民ボランティア活動支援センター。ゲストを囲んで和やかに交流する会。同センター主催。町づくりなどをサポートする「NPO 法人ボランタリーネイバーズ」の大西光夫理事長が「これからのもちづくり」をテーマに話す。参加費 100 円(お茶代)。定員 20 人。事前の申し込みが必要。

■ 安全・安心セーフティネットフォーラム

3 1 日田前 10-後 6、2 月 1 日(日)前 10-後 5、パティオ池鯉鮒。災害時における障害者の支援体制などについて考えるフォーラム。NPOあいちネットを中心とする実行委員会主催。両日、パネルディスカッションや講演会がある。3 1 日後 6・30 から知立セントピアホテルで交流会も開く。

参加費 2000 円(2 日分。交流会は別途)。定員 700 人。希望者は事務局へ申込書を FAX 98・5565、または E メール info@npo-aichi.or.jp で送る。

2 月 1 日(日)前 10-後 5
パティオ池鯉鮒
チケット料金・安心セーフティネット
31 日(土)前 10-後 6
31 日(土)前 10-後 6
2 月 1 日(日)前 10-後 5
チケット料金・安心セーフティネット
88 15000 円(2 日分。交流会は別途)
(NPO 分。交流会は別途)
送り先個人。希望者は事務局へ申込書を FAX 98・5565、または E メール info@npo-aichi.or.jp で送る。申込書はホームページ
npo-aichi.or.jp/
content / index
php のところへロ
kupete。@npoネット
E-mail
チケット料金
88・53

平成 21 年 2 月 3 日 中日新聞

災害…障害者どう救援 知立でフォーラム 被災体験など紹介

大規模災害時に障害者の救援のあり方を探る「安全・安心セーフティネットフォーラム」(同フォーラム実行委員会主催)が一月三十一日、一日の二日間、知立市文化会館かきばたホールで開かれた。

障害者の情報支援をする NPO 愛知ネット(本部安城市)や福祉関係者らで実行委員会を構成、二日間で約二百人が参加した。

フォーラムでは、障害者自立支援法の現状や被災体験などをパネルディスカッションや講演会などの形で紹介。NPO 愛知ネットが本年度中を目指して策定中の「地域で進める災害時障がい者支援ガイド」速報版の発表もあり、来場者が熱心にメモをとっていた。



や機関連携が密接な災害時の「地域で進める災害時障がい者支援ガイド」速報版の発表があり、来場者が熱心にメモをとっていた

平成 21 年 3 月 25 日 中日新聞

のびゆく大府市 「大府市民活動センター(愛称:コラビア)」オープン

NPO 愛知ネット 活動記録 2008

すべての活動は、災害時の情報のために

1999年

4月 NPO 愛知ネット設立

2000年

1月 特定非営利活動法人として、愛知県より認証を受ける
4月 北海道有珠山にて災害救援活動、インターネットでの情報発信実施
9月 東海豪雨災害で災害救援活動、インターネットでの情報発信を実施

2001年

4月 安城市・知立市・刈谷市 IT 講習会
(一般・障がい・外国人対応 開始)
6月 安城市・愛知県総合防災訓練(矢作川河川敷)参加
9月 愛知県・新城市総合防災訓練 参加

2002年

2月 静岡県災害ボランティアセンター立ち上げ訓練 参加
4月 市民防災フォーラム 2002(碧海5市地域対象)開催。
日本財団助成事業 外国人のための情報支援サイトプロジェクト開始
5月 第1回「親子ふれあいネットワーク」キャンプ(愛知県作手村)
開催
6月 愛知県・一宮市総合防災訓練参加
7月 大垣荒崎地区水害で災害救援活動、インターネットでの情報
発信を行う
8月 第2回「親子ふれあいネットワーク」キャンプ(愛知県作手村)
開催
9月 蒲郡市・愛知県総合防災訓練参加
名古屋市総合防災訓練 参加
11月 安城市東栄町今本町防災訓練『北部小学校避難所体験』
開催

2003年

1月 「みかわ NPO スクエア」プレオープン
3月 あんじょう国際交流祭「Anjo International Festival」開催
4月 市民防災フォーラム 2003 開催
日本財団助成事業 外国籍住民防災講座開始
7月 九州豪雨・宮城県北部地震に伴う情報発信を行う
8月 愛知県多文化共生プロジェクト「医療通訳スタッフ要請講座」開始
「地域ふれあいネットワーク」防災 キャンプ(愛知県作手村) 開催
愛知県・刈谷市総合防災訓練 参加
名古屋市総合防災訓練 参加
9月 十勝沖地震に伴う情報発信を行う
10月 刈谷市民ボランティア活動支援センター(刈谷市より受託)オープン
11月 蟻豆町総合防災訓練 参加

2004年

1月 「安否確認システム」を発表
4月 「いつものトーク」を発表
6月 経済産業省 市民活動活性化モデル事業(市民ベンチャー事業)「災
害に強い多文化共生コミュニティ《安心・安全・安城》プロジェクト」
開始
7月 新潟豪雨災害(新潟県三条市・中之島町・見附市)救援活動

8月 「安城地域サポートセンター」(安城市末広町)オープン
愛知県・豊橋市総合防災訓練(豊橋市三河港)参加

9月 香川県高松市高潮災害救援活動
11月 あいち中越支援ネットワークを組織、中越地震関連支援を開始

2005年

1月 安城市「安城市民活動センター」受託 オープン
3月 経済産業省市民活動活性化モデル事業の支援を受け、電話通訳セ
ンター構築
4月 「愛・地球博」警備部署外国人通訳センター運営業務開始
6月 岡崎市「岡崎市市民協働モデル事業」
8月 安城市・愛知県総合防災訓練(安城市内 5箇所)参加
愛知県「あいち防災カレッジ地域講座」
9月 内閣府「防災功労者防災担当大臣表彰」受賞
11月 内閣府「地域情報システムによる安全、安心プロジェクト」開始安城市
防災科研「災害情報コーディネーター養成に関する調査事業」
12月 行政通訳養成講座 開講

2006年

1月 愛知県青年の家(岡崎市美合町)愛知県より受託
4月 刈谷市いつものトーク(行政通訳)サービス開始
7月 経済産業省「若者と中小企業のネットワーク構築事業」開始
8月 愛知県「あいち防災カレッジ地域講座」
9月 愛知県 防災訓練参加
10月 愛知県「防災まちづくりポータルサイト作成」業務
12月 安城市自主防災支援事業

2007年

3月 愛知県自主防災組織リーダー研修
4月 安城市安全安心メール配信
6月 経済産業省「平成19年度若者と中小企業とのネットワーク構築事業」
継続受託
株式会社デンソー「できるエコ DECO スクールの企画・運営」
7月 愛知県河川情報伝達実証実験
9月 株式会社デンソー「リユースパソコン寄贈プログラム団体交流会」
11月 安城市町内会パソコン講習会

2008年

2月 愛知県知事認定
「平成19年度コミュニティビジネス優良モデル事業者」
3月 愛知県自主防災組織リーダー研修 開催
6月 経済産業省「平成20年度若者と中小企業のネットワーク構築事業」
岩手・宮城内陸地震救援活動
8月 岡崎市8月末豪雨災害救援活動
9月 独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)「平成20年度災害
NPOとのWINDS 実験業務」
独立行政法人防災科学技術研究所「島田市・安城市における災害リ
スクコミュニケーションに関する実証実験支援業務」
11月 厚生労省「地域連携型障害者災害救援ガイドラインの策定に関する調
査研究事業
愛・地球博ボランティアセンター「災害ボランティア体験における一部
プログラム運営業務」